

令和 8 (2026)年度

シラバス

- 1 年次 -

科目No.	BBS01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	情報処理学		担当教員 E-Mail	河野 良平		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	科学的思考の基礎	必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション						
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	各講義等において課されるレポート作成から、実習報告、卒業論文の作成に至るまで、大学での課題の多くは、パーソナルコンピューター(PC、パソコン)で用いられるアプリケーションソフトの基本的な操作ができることを前提として提示されている。実習・演習形式により、そのために必要な、メールソフト、ブラウザソフト、Word、Excel、Power point(PPT)の基本的操作を身に付けることを目標とする。記録の作成、情報の発信等の技術を身につけることは様々な場面役立つ。また、統計処理に関わる科目を履修するための基本的な知識技術が獲得できる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学内のネット環境の活用とメールの送受信ができる 2. 基本的なソフトを使うことができる 3. プレゼンテーションソフトを用いて発表ができる 					
対面授業の 進め方	実際にパソコン操作をしながら、授業を行う。教科書は特に指定せず、資料は授業内で配布する。授業にはデスクネットおよびマイクロソフトアカウントのIDとパスワード、ノートパソコン、携帯電話、PC用イヤホンを持って来ること。					
遠隔授業の 進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。また、毎回時間内に作成できる課題を課し、メールにて課題の提出を求める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. CALL 教室 PC の使用方法、Microsoft Teams の使い方			Microsoft Teams の設定、メール送信に対する応答			
2. ワープロ・ソフト word の使い方①			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
3. ワープロ・ソフト word の使い方②			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
4. ワープロ・ソフト word の使い方③			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
5. 表計算ソフト Excel の使い方①			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
6. プレゼンテーション・PPT の基本①			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
7. 試験課題：プレゼンテーション・ソフトを用いた発表①			事前に発表練習をしてくること			
8. 試験課題：プレゼンテーション・ソフトを用いた発表②			事前に発表練習をしてくること			
成績評価方法	項目	■課題 40%	□レポート %	□定期試験 %	■その他 60%	
	基準等	定期的に課す課題を評価する。			プレゼンテーション	
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年		
	特になし					
参考図書	特になし					
履修要件等	特になし					
オープンな 教育リソース						
研究室	研究科棟 4階 第147研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 12:10~13:00		

科目No.	BBS03-1R、BBS03-3E		授業形態	講義	開講年次	1年次・3年次
授業科目名	生物学		担当教員 E-Mail	河野 良平		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	科学的思考の基礎		必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション	選択必修					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	「ヒト」に焦点をあてた生命科学を内容とし、人の生命維持機構のもつ法則性・論理性について理解する。解剖生理学や病理学の基礎となる科目である。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体の構成単位である細胞の構造と機能について説明できる 2. 体の中の物質代謝や情報伝達のしくみが説明できる 3. 遺伝子の構造と機能が説明できる 					
対面授業の進め方	教科書と配布プリントに沿った講義を行う。毎講義終了時に学習内容のアウトプットを行う。					
遠隔授業の進め方	対面授業が出来なくなった場合、Teamsによるオンライン講義とStreamによる動画配信によって行う。毎回、課題の提出をもって出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 体をつくる分子にはどのようなものがあるか (三大栄養素)			三大栄養素別を構成する分子をまとめること			
2. 細胞とはどのようなものか(細胞)			細胞の基本的な特徴についてまとめること			
3. 細胞はどのように増えるか(細胞分裂)			2つの細胞分裂様式についてまとめること			
4. ヒトの体はどのようにできているか(組織・器官) 【講義1～3回までのまとめ小テスト】			各組織の構造と特徴についてまとめること			
5. 体の中で物質はどのように変化するか(代謝)			三大栄養素の代謝についてまとめること			
6. 遺伝子と遺伝はどのように関係しているか(遺伝の法則)			遺伝の法則についてまとめること			
7. 遺伝子と体はどのように関係しているか(セントラルドグマ)			遺伝子からタンパク質が合成されるまでの過程をまとめること			
定期試験(期末)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)			試験で不正解だった領域をもう一度復習すること			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	指定した講義の内容について小テスト(1回)を実施する。また、各回の理解度を評価する。		全講義の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	内山靖 他	リハベーシック 生物学・生体防御学		医歯薬出版	2023	
参考図書	八杉貞雄	ヒトを理解するための生物学 改訂版		裳華房	2021	
履修要件等	受講にあたり、教科書を購入すること。					
オープンな教育リソース						
研究室	研究科棟4階 第147研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 12:10～13:00		

科目No.	BPL01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	心理学		担当教員 E-Mail	松尾 加代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人間と生活	必修	2単位	前期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション						
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	心理学の分野で研究されている各領域を概観する。心理学的なものの考え方、捉え方を学び、日常生活場面で生じる人間の行動の基本的なメカニズムを理解する。それらを通して、自己理解・他者理解を深めることを目指す。					
学修目標 到達目標	1. 心理学の基礎的な知識を理解・説明することができる 2. 日常生活場面におけるさまざまな事象について、心理学の観点から解釈することができる 3. 心理学の知識を応用し、自己理解・他者理解を深める					
対面授業の 進め方	講義形式で行う。配布資料は重要箇所が空欄になっているので、学習者がその空欄を埋めることで資料を完成させる。毎講義後に、講義に関する質問や感想の提出を求める。質問の回答および補足説明は、次の講義の最初に行う。					
遠隔授業の 進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の stream を使用して動画を配信する。動画視聴後、指定された課題を提出する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. イントロダクション：心理学とは			復習：自分の言葉で内容をまとめる			
2. 心理学研究法			研究法を種類別に整理する			
3. 知覚：色、形、大きさ、動きの知覚			視覚の特性を整理してまとめる			
4. 注意：選択的注意			注意の仕組みについて整理してまとめる			
5. 記憶1：記憶の仕組み、感覚記憶～短期記憶			短期記憶までの記憶の仕組みを理解する			
6. 記憶2：長期記憶/ 認知と感情			長期記憶の種類と役割を理解する			
7. 思考：推論、判断、意思決定			判断と意思決定の違いを説明できるようにする			
8. 言語			自分の言葉で内容をまとめる			
9. 学習①：古典的条件づけ、オペラント条件づけ			条件づけの違いを理解する			
10. 学習②：社会的学習、動機づけ			学習の種類を整理する			
11. 社会心理学			テーマごとに整理してまとめる			
12. 発達心理学			発達段階を整理してまとめる			
13. 人格心理学			人格に関する理論を整理する			
14. 健康心理学			自分の言葉で内容をまとめる			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■ 課題・小テスト 30%	□ レポート %	■ 定期試験 70%	□ その他 %	
	基準等	授業内課題を呈示する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考図書						

履修要件等			
オープンな 教育リソース			
研究室	1号館4階 第4研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 14:40 ~ 16:10

科目No.	BPL02-1R、BPL02-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	日本語表現 I		担当教員 E-Mail	磯田 恵子、明治 裕子、凶佐 紅実		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人間と生活	1 単位	必修	前期 (16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション	選択必修					
教員の実務経験と授業内容の関連	高等学校で勤務経験のある教員がその経験を活かして、日本語表現の基本的知識、正確な文章表現についての講義を行う。					
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「基礎的な科目を学びながら、豊かな人間性と広い教養を養う」(1年次)を達成するため、文章表現のための基礎的な知識を学び、実践的な場面での日本語表現方法を学習する科目である。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 文章表現のための基礎知識を理解し、適切に活用できる。 より正確で、わかりやすい文章を書くことができる。 目的に沿った方法で、実際的な日本語表現(話す・書く)ができる。 					
対面授業の 進め方	少人数クラスを編成し、講義、演習、発表を通して、大学でのレポートや小論文作成のための文章作りもできるよう指導する。提示された予習・復習・課題等も含め、能動的に学習を進めさせる。					
遠隔授業の 進め方	基本的には対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を利用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. オリエンテーション 大学とは何か、高等学校における学習と大学における学問の違い、 大学でレポートを書く際のマナー(p2-9)			演習 01(p82-83)・原稿用紙の使い方			
2. 原稿用紙の使い方、常体で書く(p10-15)			演習 01(p84-85)			
3. 話し言葉を混入しない、「思う」で終わらない(p16-19)			演習 02(p87)・「自己を語る」			
4. 文のねじれ、呼応表現 (p20-23)			多様なねじれ			
5. 日本語文章におけるくぎり符号の使い方、外国語の符号は使わない (p24-28)			説明文			
6. 自分の文章と他人の文章を区別する、引用元・引用部分の書き方 (p29-33)			要約文			
7. 要約のルール、参考資料の挙げ方・注の付け方(p34-38)						
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括およびフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート 20 %	<input type="checkbox"/> 定期試験 70 %	<input type="checkbox"/> その他 10 %	
	基準等	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察しているかを評価する		授業内容全般についての理解度を評価する	授業中の取り組み状況を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	長尾佳代子・村上昌孝 編	「大学1年生のための日本語技法」		ナカニシヤ出版	2015	
参考図書						
履修要件等						
オープンな教育リソース						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BPL03-1R、BPL03-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次			
授業科目名	日本語表現Ⅱ		担当教員 E-Mail	磯田 恵子、明治 裕子、凶佐 紅実					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	人間と生活	必修	1単位	後期(16h)				
	作業療法学								
	言語聴覚学								
ヘルスプロモーション	選択必修								
教員の実務経験と授業内容の関連	高等学校で勤務経験のある教員がその経験を活かして、日本語表現の基本的知識、正確な文章表現についての講義を行う。								
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「基礎的な科目を学びながら、豊かな人間性と広い教養を養う」(1年次)を達成するため、文章表現のための基礎的な知識を学び、実践的な場面での日本語表現方法を学習する科目である。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 文章表現のための基礎的な知識を理解し、適切に活用できる。 より正確で、わかりやすい文章を書くことができる。 目的に沿った方法で、実践的な日本語表現(話す・書く)ができる。 								
対面授業の 進め方	少人数クラスを編成し、講義、演習、発表を通して、大学でのレポートや小論文作成のための文章作りもできるよう指導する。提示された予習・復習・課題等も含め、能動的に学習を進めさせる。								
遠隔授業の 進め方	基本的には対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を利用した授業のLIVE 配信を行う。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上				
1. 段落分けを行う、3部構成で書く(p40-47) <構成について>			演習(演習問題②P88-89)						
2. メモの取り方、接続語を使う(p48-51) <接続語>			聞き取り要約文						
3. 問題提起を行う、根拠を示しながら書く、事実を客観的に書く(p52-56) <事実と意見> <意見文>			演習(演習問題③p90-91)						
4. 敬語について理解する、第三者に向けて身内のことを述べる場合の敬語(p58-64)			敬語						
5. 電子的な活字文書の作成、改まった手紙の書き方(p65-73)			演習(演習問題④p92-93)						
6. 電子メールの書き方(p74-79)			小論文						
7. 全講義の振り返り									
定期試験(期末レポート)									
8. 総括およびフィードバック(定期試験の講評・解説)									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	20%	□定期試験	70%	□その他	10%
	基準等			与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察しているかを評価する		授業内容全般についての理解度を評価する		授業中の取り組み状況を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年			
	長尾佳代子・村上昌孝 編	「大学1年生のための日本語技法」		ナカニシヤ出版		2015			
参考図書									
履修要件等									
オープンな教育リソース									
研究室	1号館1階 非常勤控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。					

科目No.	BPL07-1E		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	スポーツ実技		担当教員 E-Mail	中裕 俊介		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人間と生活	選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション						
教員の実務経験と授業内容の関連	高等学校で1年間(保健体育)や社会体育専門学校で13年間(フィットネストレーニング等)の勤務経験のある教員がその経験を生かして、ニュースポーツを中心とした生涯スポーツについての講義を行う。					
授業内容の要約	ニュースポーツなどの実践を通して、心身の変化や技能の向上を体験し、自分に適した活動を見つけ、生涯スポーツに向けて主体的に健康と体力を維持増進する能力を養う。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動やスポーツの実践を通して、心身の変化や技能の向上の方法を理解する 2. 道具やルールの変更で、身体運動の喜びや面白さが変化することを理解する 3. 集団行動における自らの特性を知る 					
対面授業の 進め方	実技形式にて実施する。運動の出来る服装、運動靴で参加する。 履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施内容を若干変更する。					
遠隔授業の 進め方	一定期間が遠隔になる場合は、実技課題への取り組みと報告書の提出をもって出席とする。 社会情勢によりセメスターでの実施が不可能な場合は、1年次後期以降に開講する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション 受講方法、記念講堂の使用について等						
2. インディアカ①:パス回しが出来るようになる			予習:インディアカの競技ルールを調べる			
3. インディアカ②:試合での動き方を修得する			予習:インディアカの練習方法を調べる			
4. ペタンク:正規ルール			予習:ペタンク・アジャタの競技ルールを調べる			
5. モルック:正規ルール			予習:モルックの練習方法を調べる			
6. アルティメット①:様々な投げ方を習得する			予習:アルティメットの競技ルールを調べる			
7. アルティメット②:正確に投げられるようになる			予習:アルティメットの練習方法を調べる			
期末レポート						
8. 総括及びフィードバック						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 80%	□定期試験 %	■その他 20%	
	基準等	なし	・体験した種目を障がい者に適応する場合のルール設定について	なし	・準備体操・主運動、備品準備・後片付け等の参加状況を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	なし	なし		なし	なし	
参考図書	なし	なし		なし	なし	
履修要件等	運動制限、運動を禁止されている学生は、事前に学務係に申し出ること。					
オープンな教育リソース						
研究室	研究科棟4階 144研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20~17:30		

科目No.	BUS01-1E、BUS01-2R		授業形態	講義	開講年次	1年次・2年次
授業科目名	社会学		担当教員 E-Mail	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会の理解	選択	1単位	後期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学		必修			
	ヘルスプロモーション					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>「社会学とはどのような学問であるのか」という問いに答えを見つけられるように講義を進める。社会学の視点や方法論を理解するために古典的学説やいくつかの社会現象へのアプローチを紹介する。事例を用いて社会学的アプローチを実際に試みる。</p> <p>学生個々が社会学的アプローチを学ぶことにより、将来、多職種と連携する際に専門職としての自己の役割を明らかにすることにつながる。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の成り立ちから様々な学説が生まれた過程を理解することができる 2. 人間の行動と環境との関係を社会学的な視点で見ることができる 3. 日常的な社会現象を社会学的な問題として捉えることができる 					
対面授業の 進め方	基本的には、講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業になった場合は、時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、登校日に配付。					
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. 社会学の歴史と展開 (社会学の命名から社会学への歩み)			社会学の命名に至る過程から実証科学であることをまとめること			
2. 実証科学としての「社会学」 I デュルケームの社会学 『自殺論』			『自殺論』における社会学的方法を整理すること			
3. 実証科学としての「社会学」 II-1 ウェーバーの社会学 I			ウェーバーの学説をまとめること			
4. 実証科学としての「社会学」 II-2 ウェーバーの社会学 II			宗教が経済に与えた影響について整理すること			
5. シカゴにおける社会学の展開 I			『ヨーロッパとアメリカにおけるポーランド農民』の要点を整理すること			
6. シカゴにおける社会学の展開 II			環境が与える影響について考察すること			
7. 逸脱をうむ社会環境			事例の要点を整理し、社会学的アプローチを試み、少年非行の要因を考察すること			
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90%	■その他 10%
	基準等			全般に渡る範囲から理解度をはかる	個々に作成した要点を整理したプリントの評価
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	各項目に応じてレジユメを配布する				
参考図書	適宜紹介する				
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	1号館4階 第1研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00	

科目No.	BUS02-1R、BUS02-2R		授業形態	講義	開講年次	1年次・2年次
授業科目名	社会福祉学		担当教員 E-Mail	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会の理解	必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション						
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>学生が自ら“他者を支援すること”を学びとれるよう、人間の尊厳や権利について、考え理解できるように児童福祉の領域を主として講義を展開する。また、人間の尊厳が現代社会においていかに尊重されているのかを、福祉の制度施策に照らし合わせて考える。その上で、社会福祉における価値観や倫理、人権意識、思想、歴史などを体系的に学び理解する。</p> <p>対人援助職に求められる理念を理解することにより、豊かなコミュニケーション能力の獲得につながる。</p> <p>また、障害者福祉論における今日のサービスの理解、社会福祉援助技術論で学ぶ臨床場面における援助技術の理解につながる科目である。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳と権利について理解できる 2. 社会福祉に関わる制度施策が理解できる 3. 各種の福祉サービスを理解し社会資源として活用できる 					
対面授業の 進め方	講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること。新しく学ぶ用語があるので、自ら用語集を作成できるようにノートを用意されることを勧める。					
遠隔授業の 進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、登校日に配付。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 児童に見る権利の変遷と社会の歴史 社会の負担としての児童から労働力としての児童、次代の国身としての児童から権利の主体としての児童への変遷をみる			復習：児童の地位の移り変わりをまとめること			
2. 社会的養護のおこりⅠ 明治時代にはじまる社会的養護			復習：明治時代にはじまる社会的養護のあり方を整理すること			
3. 社会的養護のおこりⅡ 感化事業の創設と展開			復習：明治期における先覚者の事業と意義をまとめること			
4. 児童領域における社会福祉			復習：児童福祉に関わる法律を理解し整理すること			
5. 障がい者の福祉とは			復習：障害者福祉に関わる法律を理解し整理すること			
6. 障害の理解			復習：障害と合理的配慮について理解し整理すること			
7. 虐待の防止に関わる法律			復習：虐待防止法を理解し整理すること			
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 90%	<input checked="" type="checkbox"/> その他 10%	
	基準等			全般に渡る範囲から理解度をはかる	個々に作成した要点を整理したプリントの評価	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	各項目に応じてレジユメを配布する			
参考図書	適宜紹介する			
履修要件等	社会保障制度、社会福祉援助論、障害者福祉論も併せて受講されることが望ましい			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館4階 第1研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00	

科目№	BUS03-1R、BUS03-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	英文法と英語コミュニケーション		担当教員 E-Mail	パトリック・ポーレン		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	社会の理解	必修	1単位	前期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
	ヘルスプロモーション		選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	An instructor with 30 years' experience in teaching English to Japanese university students will use that experience to teach English conversation.					
授業内容の要約	This course is designed to help students develop their English conversation skills, with a strong emphasis on key aspects of English grammar. By improving their communication					
学修目標 到達目標	1. The study of English conversation, emphasizing English grammar 2. Confirming the exchange of information in English 3. Create a foundation for further English study					
対面授業の 進め方	講義, 演習					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、office365stream に動画をアップロードする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1 Introducing oneself, greeting people (教科書 pp 1-3)			準備として、宿題を完成させ、来週のクイズに向けて勉強します。			
2. Names and occupations (教科書 pp 4-11)						
3. Introducing people, discussing names (教科書 pp 12-15)						
4. Collecting information, locations (教科書 pp 16-21)						
5. Talking about directions, transportation (教科書 pp 22-27)						
6. Talking about family (教科書 pp 28-33)						
7. Discussing family members (教科書 pp 34-37)						
8. Talking about events, compliments (教科書 pp 38-45)						
9. Describing clothes, discussing activities (教科書 pp 46-53)						
10. Describing free time activities (教科書 pp 54-59)						
11. Review of Units 1-7 (教科書 pp 60-63)						
12. Describing homes and neighborhoods (教科書 pp 64-67)						
13. Discussing furniture, describing weather (教科書 pp 68-73)						
14. Discussing plans and activities (教科書 pp 74-79)						
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						

成績評価方法	項目	■課題 70%	□レポート %	□定期試	■小テスト 30%
	基準等	Homework will be assigned and checked weekly.			授業内の小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	Saslow; Ascher	"Top Notch: Fundamentals" < Third Edition >		Pearson	2015
参考図書	None.				
履修要件等	Please come fully prepared to each class meeting.				
オープンな					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	BUS04-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	英文講読		担当教員 E-Mail	松尾 加代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会の理解		選択必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション						
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	250単語程度の健康に関する英文を読み、和訳を行う。読むことを通して、英語コミュニケーションへの興味を促進することを目指す。					
学修目標 到達目標	1. 健康に関連する英単語が理解できる。 2. 健康に関連する英文が読解できる。					
対面授業の 進め方	講義形式で授業をすすめる。指定の教科書を使用して、読むことを通して英文の理解を深める。単語を調べ、日本語訳を行い、各ユニットの最後に理解度の確認のための問題を実施する。					
遠隔授業の 進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365のstreamを使用して動画を配信する。動画視聴後、指定された課題を提出する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. Unit 1 What country is the fattest in the world?				Unit 2の知らない単語を調べる		
2. Unit 2 What do we know about sleep talking?				Unit 3の知らない単語を調べる		
3. Unit 3 Why are bug bites dangerous?				Unit 4の知らない単語を調べる		
4. Unit 4 What kind of bacteria can be found in the Great Barrier Reef?				Unit 5の知らない単語を調べる		
5. Unit 5 How much caffeine can we take?				Unit 6の知らない単語を調べる		
6. Unit 6 How does the love hormone oxytocin work to improve relationships?				Unit 7の知らない単語を調べる		
7. Unit 7 What can happen when you're too clean?				知らない単語全体の復習		
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	レポート %	■定期試験 70%	■その他 %	
	基準等	単語クイズ		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	西原俊明, 他	Good Health, Better Life		金星堂	2019	
参考図書						
履修要件等	累計GPA 2.3以上であることが望ましい。					
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館4階 第4研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 14:40 ~ 16:10		

科目№	BUS06-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	英会話 I		担当教員 E-Mail	パトリック・ポーレン		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	社会の理解	選択必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
	ヘルスプロモーション					
教員の実務経験と授業内容の関連	An instructor with 30 years' experience in teaching English to Japanese university students will use that experience to teach English conversation.					
授業内容の要約	This English conversation course will build student confidence and improve overall English speaking and listening proficiency through enjoyable in-class oral activities. Moreover, in accordance with the university's diploma policy, this first-year course will help to "cultivate a rich humanity and a broad culture."					
学修目標 到達目標	講義, 演習					
対面授業の 進め方	Students should come to every class and practice enthusiastically. They should also do each homework assignment neatly and completely.					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、office365stream に動画をアップロードする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. Discussing ingredients, offering food (教科書 pp 80-83)				準備として、宿題を完成させ、来週のクイズに向けて勉強します。		
2. Making invitations, discussing past events (教科書 pp 84-91)				"		
3. Describing past and weekend activities (教科書 pp 92-95)				"		
4. Describing appearance, showing concern (教科書 pp 96-99)				"		
5. Suggesting remedies, discussing abilities (教科書 pp 100-105)				"		
6. Declining invitations, discussing favors (教科書 pp 106-111)				"		
7. Discussing one's winter vacation plans				"		
8. Review of Weeks 1-7				"		
成績評価方法	項目	■課題 70%	□レポート %	□定期試験 %	■小テスト 30%	
	基準等	Homework will be assigned and checked weekly.		授業内の小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Saslow; Ascher	"Top Notch: Fundamentals" < Third Edition >		Pearson	2015	
参考図書	None					

履修要件等	Please come fully prepared to each class meeting.		
オープンな教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No	BUS07-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	英会話Ⅱ		担当教員 E-Mail	パトリック・ポーレン		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	社会の理解	選択必修	1単位	後期 (16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション						
教員の実務経験と授業内容の関連	An instructor with 30 years' experience in teaching English to Japanese university students will use that experience to teach English conversation.					
授業内容の要約	This English conversation course will build student confidence and improve overall English speaking and listening proficiency through enjoyable in-class oral activities. Moreover, in accordance with the university's diploma policy, this first-year course will help to "cultivate a rich humanity and a broad culture."					
学修目標 到達目標	講義, 演習					
対面授業の 進め方	Students should come to every class and practice enthusiastically.					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、office365stream に動画をアップロードする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. Getting to know someone's life story (教科書 pp 112-113)			準備として、宿題を完成させ、来週のクイズに向けて勉強します。			
2. Discussing plans (教科書 pp 114-115)			"			
3. Sharing one's dreams for the future (教科書 pp 116-119)			"			
4. Units 8 to 14 review (教科書 pp 120-123)			"			
5. Talking about entertainment			"			
6. Talking about travel			"			
7. Discussing future ways of studying English			"			
成績評価方法	項目	■課題 70%	□レポート %	□定期試験 %	■小テスト 30%	
	基準等	Homework will be assigned and checked weekly.		授業内の小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Saslow; Ascher	"Top Notch: Fundamentals" <Third Edition>		Pearson	2015	
参考図書	Please come fully prepared to each class meeting.					

履修要件等			
オープンな教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	BLA01-1R	授業形態	演習	開講年	1年次
授業科目名	基礎ゼミ	担当教員 E-Mail	各担当教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数	履修期間
	理学療法学	理学療法の基盤		必修	1単位
	作業療法学	作業療法の基盤			
	言語聴覚学	言語聴覚療法の基盤			
教員の実務経験と 授業内容の関連					
授業内容の要約	<p>関連3施設の外観や内部の見学を行い、医療人となる覚悟と関心を強化する。また、施設見学レポートの作成を通じて、文章作成能力を向上させるとともに、情報利活用能力・パソコン操作能力・オンライン活用能力を向上させる。カレンダーアプリ等を活用し、段取り力を身に付ける。対話を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる協調性を深める。</p>				
学修目標 到達目標	<p>1 医療人となる覚悟と関心を強化する。 2 文章作成能力を向上させる。 3 図書館等を利用して情報利活用能力（情報モラル、情報探索、情報整理等）を向上させる。 4 パソコン操作能力・オンライン活用能力を向上させる。 5 段取り力を身に付ける。 6 協調性を深めることができる。</p>				
対面授業の 進め方	<p>少人数形式で、担当教員の指導のもと、アクティブ・ラーニング（グループワーク、ディスカッションなど）を中心とした演習授業を行う。</p>				
遠隔授業の 進め方	<p>遠隔授業を行う場合、office365teamsを用いる予定である。関連3施設の外観や内部の見学は、地図情報サービスや画像を用いる予定である。</p>				
授業計画				授業時間外に必要な学修30分以上	
1.	オリエンテーション ①メンバー顔合わせ ②シラバス説明 ③各ゼミでのプログラム（カレンダーアプリ等の利用・学修計画や生活習慣の確認・等） (4/13)				
2.	各ゼミでのプログラム（ノート PC 操作【Microsoft ワードでのレポート作成、teams の指定フォルダへのレポート提出（アップロード）】やメールの書き方・返答のマナー教育・関連施設資料閲覧・等） (4/20)				
3.	関連施設見学① 各ゼミでのプログラム (4/27)			レポート①	
4.	レポート①FB 各ゼミでのプログラム（図書館利用マナーの習得・対面でのteams 会議練習・関連施設見学を通じて実施した自己学習のプレゼン・等） (5/11)				
5.	関連施設見学② 各ゼミでのプログラム (5/18)			レポート②	
6.	レポート②FB 各ゼミでのプログラム（学内遠隔でのteams 会議練習・関連施設見学を通じて実施した自己学習のプレゼン・等） (5/25)				
7.	関連施設見学③ 各ゼミでのプログラム (6/1)			レポート③	
8.	レポート③FB 各ゼミでのプログラム（関連施設見学を通じて実施した自己学習のプレゼン・学修計画や生活習慣の確認・等） (6/8)				

成績評価方法	項目	■関連施設見学への取り組み 50%	■レポート 25%	■授業への取り組み 25%
	基準等	集合時間の遵守、身だしなみの適切さ、必要物品に不備がないか 施設での失礼の無い態度やふるまい、施設での積極性や意欲的にメモを取る態度、等を評価する	提出期限・体裁・項目・内容について、評価する。	授業態度・参加度を評価する。
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない			
参考図書				
e-ラーニング	IZUMI ドリル	読解スキル養成ドリル	ラインズ株式会社	
履修要件等	この授業ではノート PC を使用します。また、以下の内容に取り組みます。①Microsoft ワードでのレポート作成 ②teams の指定フォルダへのレポート提出 (アップロード)。③ノート PC での teams オンライン授業参加。④メールの書き方・返答のマナーの修得。⑤カレンダーアプリ等を活用し段取り力を身に付ける。⑥図書館利用マナーの習得。⑦読解力向上にむけた学修をする場合もあります。			
オープンな教育リソース				
研究室	各担当教員研究室・教室	オフィスアワー	各担当教員	オフィスアワー

科目No	BUS08-1R	授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	基礎ゼミ	担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション	社会の理解	必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	データサイエンスの研究を継続的に行っている教員が、自身の実務経験に基づき、データ分析の初期段階で必須となる Excel を用いたデータの整理・集計・可視化の技能を教授する。				
授業内容の要約	Microsoft Excel は、データ管理・加工および基礎的なデータ分析を行うための表計算ソフトウェアである。Excel でデータを整理・分析するプロセスは、データに新たな洞察と価値を与え、社会で活用される「情報」の基礎となる。本演習では、データサイエンスを本格的に学修するための準備として、Excel を操作するデータハンドリングの基本的技能を習得することを目標とする。				
学修目標 到達目標	<p>本演習の学修目標は、データサイエンスの学習基盤として表計算ソフトウェア (Microsoft Excel) の基本的な操作とデータハンドリングの概念を理解し、後続の応用科目をスムーズに履修するための基礎能力を確立することである。</p> <p>本演習を修了した学生は、以下の目標を達成していることとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本操作の習得: Excel のファイル作成、基本的な書式設定、印刷設定などの文書作成に必要な基本操作を正確に行える。 2. データの整理と集計: データの入力、並べ替え、フィルタ、および四則演算や SUM 関数などの基本的な関数を用いた集計を正確に行える。 3. データ可視化の基礎: 棒グラフや円グラフなど、データの特徴に応じたグラフを作成し、基本的な可視化表現を行える。 4. 応用への接続: 後期に設定されている応用的な Excel 操作を扱う科目 (コミュニケーション学) を履修するための、準備段階の知識と技能を有している。 				
対面授業の 進め方	講義と演習を中心に授業をすすめる。授業時には、まず講義を行った後に自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いて PBL 形式で演習を行う。どのパソコンを用いるかについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスをを行う。また演習の達成度をグループで発表する機会を設けることによりアクティブ・ラーニングを活性化する。				
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams, stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。				
授業計画		授業時間外に必要な学修			45分以上
1.	オリエンテーションと Excel の基本環境	授業で紹介された基本操作やショートカットキーを自宅 PC (または大学 PC) で試し、慣れる練習をする。			
2.	データの入力と整形	課題: 与えられた不揃いなデータセットに対し、指定された形式で整形 (クレンジング) を行う。			
3.	基本的な集計と関数 (SUM・AVERAGE)	授業で扱ったデータセットとは別のデータに対し、基本関数を用いて集計結果を正確に算出する練習。			
4.	データ選択と検索関数 (IF・VLOOKUP)	課題: VLOOKUP 関数を用いて、ヘルスデータ (例: ID と属性データ) を結合する練習問題に取り組む。			
5.	データの並べ替えとフィルタ	授業で扱ったデータセットに対し、様々な条件 (例: 年齢と性別) でフィルタリングを行い、結果を考察する。			
6.	基礎的なデータ可視化と表現	課題: 与えられたデータから、2種類の異なるグラフを作成し、それぞれのグラフが伝える情報の違いを説明する。			

7. 総括演習と応用準備		定期試験または期末レポート（総合演習）の準備。			
定期試験（期末レポート）					
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	□小テスト %	□課題・レポート 80 %	□定期試験 %	□その他 20%
	基準等		最終課題に取り組み、期日までに提出する。提出状況、内容を吟味する。		講義中に課された課題の提出状況、内容を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	富士通エフ・オー・エム	MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）		FOM 出版	2020
参考図書					
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	※検討中		

科目No.	BLA02-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	コミュニケーション学		担当教員 E-Mail	中裕 俊介		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法の基盤		必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学	作業療法の基盤				
	言語聴覚学	言語聴覚療法の基盤				
教員の實務経験と授業内容の関連	北摂地域青少年教育活動(3年間・人間関係トレーニング)や中学校・高等学校における学校開き研修(3年間・コミュニケーション・トレーニング)などの勤務経験のある教員がその経験を生かして、人間関係トレーニングを中心とした講義を行う。					
授業内容の要約	医療現場のみならず、社会生活においてより良い人間関係の構築は必要不可欠なものである。本講義では、コミュニケーションの基本的理論について実例を通して学び、自分のコミュニケーション・パターンに気づき、スムーズなコミュニケーションの方法を理解、身につけることを目的とする。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基本的な理論を説明できる 2. コミュニケーションに必要な能力を説明できる 3. 対人サポートに必要な場面に応じたコミュニケーション方法を理解する 					
対面授業の 進め方	講義を主体とした授業を行う。教科書に基づいた内容についてスライドを使用して解説する。適宜、シンク・ペア・シェア、ロールプレイなどのアクティブラーニングを実施する。					
遠隔授業の 進め方	出来る限り対面授業にて実施する。全学の講義が遠隔授業に移行した場合は、Microsoft Teams を利用して時間割と同時刻にて実施する。その場合、毎回、課題の提出をもって出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	90分以上	
1. 自分を理解する①：自己概念、自己肯定感				予習：教科書：p2-17		
2. 自分を理解する②：性格・傾向				予習：教科書：p17-33		
3. コミュニケーション能力①：言語・非言語、みる力				予習：教科書：p33-73		
4. コミュニケーション能力②：きく力・伝える力				予習：教科書：p74-84		
5. 臨床で役立つコミュニケーション技法①：ロールプレイ				予習：教科書：p85-97		
6. 臨床で役立つコミュニケーション技法②：ロールプレイ				予習：教科書：p97-104, 183-185		
7. 臨床で役立つコミュニケーション技法③：ロールプレイ				予習：教科書：p219-228		
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	□レポート %	■定期試験 50%	□その他 %	
	基準等	授業内で提出された課題内容について理解度を評価する		授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	山口 美和	PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド 第3版			医学書院	2024
参考図書	金田 嘉清、他	PT・OTのための実用・実践コミュニケーション術			金原出版	2024
履修要件等	・特になし					
オープンな教育リソース						
研究室	研究科棟 4階 144 研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 16:20~17:30		

科目No	BUS09-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	コミュニケーション学	担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション	社会の理解	必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	データサイエンスの研究を継続的に行っている教員が、自身の実務経験に基づき、データ分析の初期段階で必須となる Excel を用いたデータの整理・集計・可視化の技能を教授する。				
授業内容の要約	本科目は、前期「基礎ゼミ」の発展として、Excel の応用的なデータ分析と情報発信技能を習得する。学生は、統計関数、ピボットテーブルを用いた高度な集計に加え、分析結果を他者に分かりやすく伝えるレポート・グラフ作成技術を学ぶ。本演習を通し、情報社会において情報を適切に収集・分析する知識と技能を持ち、他者への思いやりを持って協働できる基本能力を身に着けていることを目標とし、論理的なデータ解釈と協働による課題解決能力を養う。				
学修目標 到達目標	<p>前期に習得した Excel の基本技能を土台として、応用的なデータ集計・分析手法を習得することである。これにより、情報社会において情報を適切に収集・分析する知識と技能を持ち、他者への思いやりを持って協働できる基本能力を身に着けるための、実践的なデータ活用スキルと、分析結果を論理的かつ効果的に伝えるコミュニケーション能力を養う。本演習を修了した学生は、以下の目標を達成していることとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応用分析技能: ピボットテーブル、統計関数(例: STDEV、CORREL など)、およびデータの入力規則や条件付き書式といった応用機能を活用し、多角的な視点から健康データを集計・分析できる。 2. 情報伝達の正確性: 分析結果を裏付けるデータに基づき、受け手にとって最も理解しやすいグラフ形式やレポート構造を選択し、誤解を与えないよう論理的かつ正確に情報を発信できる。 3. 協働と倫理: チームでのデータ分析・報告作業を通じて、データを提供する他者への配慮や、情報共有における倫理的な責任を理解し、円滑な協働を行える。 4. 自動化の基礎概念: 自動化の基礎概念を理解し、ルーティンワークの効率化を図るための自動化の考え方を応用的に説明できる。 				
対面授業の 進め方	講義と演習を中心に授業をすすめる。授業時には、まず講義を行った後に自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いて PBL 形式で演習を行う。どのパソコンを用いるかについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスを行う。また演習の達成度をグループで発表する機会を設けることによりアクティブ・ラーニングを活性化する。				
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams, stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	45分以上	
1.	オリエンテーションと応用分析への導入		後期を通じて分析したいヘルスプロモーション分野の課題と、それに関連する公開データ(または仮想データ)を準備する。		
2.	多角的なデータ集計(ピボットテーブル)		課題: 用意したデータセットに対し、2種類以上の視点(例: 年齢別と地域別)でピボットテーブルを作成し、結果をまとめる。		
3.	応用的な統計関数とデータ評価		授業で扱った統計関数を用いて、ヘルスデータにおける異常値(外れ値)を特定し、その処理方法を検討する。		

4.	データ分析の効率化（入力規則・条件付き書式）	課題：後期課題で使用する Excel シートに、入力ミスを防ぐための入力規則を設定する。			
5.	情報発信のためのグラフ応用とデザイン	分析結果を伝える際に、棒グラフと折れ線グラフのどちらが適切か、その理由を考察する（コミュニケーションの視点）。			
6.	データ処理フローの自動化とレポート作成	課題：Power Query によるデータ処理フローと更新可能な図表の仕組みを理解し、分析レポートの構成案を作成する。			
7.	総合演習・協働と最終発表準備	定期試験または期末レポート（総合分析と提言レポート）の作成・提出。			
定期試験（期末レポート）					
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	□小テスト %	□課題・レポート 80 %	□定期試験 %	□その他 20%
	基準等		最終課題に取り組み、期日までに提出する。提出状況、内容を吟味する。		講義中に課された課題の提出状況、内容を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	富士通エフ・オー・エム	MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）		FOM 出版	2020
参考図書					
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	※検討中		

科目No.	BLA03-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	総合ゼミ I		担当教員 E-Mail	中村美砂 村西壽祥 佐伯純弥		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法の基盤		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場において豊富な実務経験のある専任教員が指導し、将来医療職に就くための心構えを伝える。また、大学人としてマナー指導を行う。					
授業内容の要約	理学療法士を志す入学生に対し、大学における生活・学修習慣を確立し、大学生としての役割・責任感の自覚を促す。アクティブ・ラーニングなどにより臨床で求められる社会的マナー(身だしなみ、態度、ことば遣い、行動、意思疎通、対人関係等について)を習得し、他者への関心を高め、医療を志す学生として必要な資質を身につけることを目標とする。演習により自ら課題を把握し、その問題解決に取り組む重要性を知り実践する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の規則を守ることができる 2. 大学における生活・学修習慣を確立する 3. コミュニケーション能力の向上を目指す 4. 社会人及び理学療法士を志す学生としての基本的な振る舞いができる 					
対面授業の 進め方	本科目の内容を後期の臨床実習に活かせるようにアクティブラーニングを中心とした学修を行い、グループワークに参画することで他者との意見交換や交流の重要性を学び、コミュニケーション能力の向上を目指す。					
遠隔授業の 進め方	office365 Teams を用いた講義、および課題学習を行う					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 授業のスケジュール、学年暦、履修、学内ルール、大学との連絡方法、チューターに関する説明				メール送信の実行		
2. 出欠ルール、課題に関する説明、Teams の説明、メンタルヘルス調査、自己紹介				自己紹介ファイルの作成、Teams 使用方法の修得		
3. 自己紹介 続き				自己紹介ファイルの作成、		
4. 集団活動(体育祭)の準備等を通じた学生間連携				仲間作り		
5. 基礎学修 [解剖学・生理学・運動学]①				自宅学修課題を行う(次週提出)		
6. 基礎学修 [解剖学・生理学・運動学]②				自宅学修課題を行う(次週提出)		
7. 基礎学修 [解剖学・生理学・運動学]③				自宅学修課題を行う(次週提出)		
8. 基礎学修の確認テスト I				自宅学修課題を行う(次週提出)		
9. 基礎学修確認テストの復習				自宅学修課題を行う(次週提出)		
10. 基礎学修の確認テスト II				自宅学修課題を行う(次週提出)		
11. 演習:バイタルサインの測定、触察(上肢・下肢) [評価]①				自宅学修課題を行う(次週提出)		
12. 演習:バイタルサインの測定、触察(上肢・下肢) [評価]②				自宅学修課題を行う(次週提出)		
13. 演習:バイタルサインの測定、触察(上肢・下肢) [評価]③				自宅学修課題を行う(次週提出)		
14. 試験に関するオリエンテーション				試験勉強		
15. 総括及びフィードバック						

成績評価方法	項目	■小テスト・演習評価 60%	■レポート 10%	□定期試験 %	■その他 30%
	基準等	小テストと演習の評価	レポート課題		授業態度・発表内容
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	ヒントレ研究所偏	基礎固めヒント式トレーニング第3版 基礎医学編 (購入不要)		南江堂	2024
	山口 美和	PT・OT・STのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド		医学書院	2024
参考図書	大阪河崎リハビリテーション大学 学生便覧				
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。				
オープンな教育リソース					
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No	BLA03-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	総合ゼミ I		担当教員 E-Mail	増澤 達彦・上島 健		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法の基盤		必修	1単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	精神障害分野、就労支援分野で作業療法士として10年以上勤務経験のある教員がその経験を活かして、臨床現場に必要な心構え等を講義しリハビリテーション対象者への対応について指導する。					
授業内容の要約	リハビリテーションの社会的意義を踏まえ、医療人を目指す心構えなどを学ぶ。また、臨床現場に関わる上で必要な視点を学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会性のある態度を身につける 2. 自分の考えを相手に伝えることができる 3. 作業療法に興味を持つことができる 4. 専門基礎の知識の必要性を理解する 					
対面授業の 進め方	講義を主体とした授業を行う。また、アクティブラーニングとして「プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション」などを実施する。					
遠隔授業の 進め方	講義ではMicrosoft office365のTeamsを使用し双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション、大学生活について、履修確認				学生便覧の確認		
2. 集団活動（体育祭準備）を通じた学生間連携						
3. 学生便覧指導、自己紹介チャレンジ①（自分の話をする練習）				学生便覧の確認		
4. 自己紹介チャレンジ②（簡潔に話す練習）						
5. 学習方法について学ぶ①（記憶のメカニズムを学ぶ）				講義内容の復習、小テストに向けた勉強		
6. 学習方法について学ぶ②（みんなの方法を試してみよう）、小テスト				講義内容の復習		
7. コミュニケーションゲーム						
8. 専門用語を使いこなそう				講義内容の復習		
9. グループワーク①（話す練習他）						
10. グループワーク②（患者さんと話す練習他）						
11. 作業体験会						
12. 専門科目学習会①（生理学他）				授業配布資料・ノートの確認		
13. 専門科目学習会②（解剖学他）				授業配布資料・ノートの確認		
14. 専門科目学習会③（解剖学・生理学他）				授業配布資料・ノートの確認		
15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）						
成績 評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	■レポート 40%	□定期試験 %	■その他 20%	
	基準等	小テストを実施し、授業内容の理解度を評価する	グループワークで課題をまとめ、その内容を評価する		授業態度及びグループワークの貢献度を評価する	

教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山口 美和	PT・OT・STのためのコミュニケーション 実践ガイド第3版		医学書院	2024
参考図書	学生便覧				
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない				
オープンな 教育リソース					
研究室	上島：1号館5階 第14研究室 増澤：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	上島：毎週木曜日 14:40～16:10 増澤：毎週木曜日 12:10～13:00		

科目No.	BLA03-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	総合ゼミ I		担当教員 E-Mail	松尾 加代・馬屋原 邦博・ST 教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語聴覚療法の基盤		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設等において5年以上実務経験のある言語聴覚士の授業により、臨床における基本的な考え方と知識・技術について講義及び指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、臨床で求められる社会的マナー（身だしなみ、態度、ことば遣い、行動、意思疎通、対人関係等について）を習得し、コミュニケーションの重要性を学び、チーム医療を推進することができる」を身につけるため、関連施設見学を通して言語聴覚士・理学療法士・作業療法士の業務内容および職域の概要を知る。見学した内容を踏まえてリハビリテーションについて考察し発表する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ活動において積極的にコミュニケーションをとることができる 2. レポートや課題など、文章の作成ができる 3. 適切なプレゼンテーションをすることができる 4. 言語聴覚士の職域を説明することができる 					
対面授業の 進め方	2年生以降の臨床実習に活かせるように、積極的にグループワークに参画し、学ぶことが望まれる。発表を通して自分の意見を伝達し、質疑応答など学生同士で討論していく。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. ST専攻1年目のオリエンテーション・自己紹介				オリエンテーションの内容を振り返る		
2. コミュニケーションについて				コミュニケーションについて復習する		
3. 言語聴覚士という仕事について				言語聴覚士の仕事について復習する		
4. 集団活動（体育祭等）を通じた学生間連携・チームワーク				チームワークについて振り返る		
5. 言語聴覚士のリハビリテーションについて				STのリハビリテーションについて復習する		
6. 臨床見学実習Ⅰについて				臨床見学実習Ⅰについて復習する		
7. パワーポイント資料の作成（初級）				発表のための資料を作成する		
8. 発達の基礎知識について（保育園・認定こども園・幼稚園の違い）				発達の基礎知識について復習する		
9. 客観と主観：文章を読む				客観と主観を意識して文章を読んでみる		
10. 合同ゼミ（ST2・3年生と交流）				合同ゼミについて振り返る		
11. 客観と主観：写真を観察する				客観と主観を意識して写真を観察してみる		
12. 客観と主観：文章を書く				客観と主観を意識して文章を書いてみる		
13. STに関する発表①				発表①について振り返る		
14. STに関する発表②				発表②について振り返る		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）				総括及びフィードバックについて振り返る		
成績評価方法	項目	■課題・レポート 40%	■発表 50%	□定期試験 %	■その他 10%	
	基準等	授業内で課題を行い、授業の内容についての理解度を評価する。	STについてのプレゼンを評価する。	定期試験を実施しないため、レポートや発表の達成度によって成績が判定される。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		臨床実習の手引き		2026
参考図書		関連施設見学の手引き	大阪河崎リハビリテーション大学	2026
	藤田郁代 監修	標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第3版	医学書院	2025
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習 I の履修は認められない。			
オープンな教育リソース				
研究室	馬屋原：1号館5階 第19研究室 松尾：1号館4階 第4研究室	オフィスアワー	馬屋原：毎週水曜日 12:10 ~ 13:00 松尾：毎週木曜日 14:40 ~ 16:10	

科目No.	FBM01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域 I		担当教員 E-Mail	大籠 友博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能 及び身体の発達	必修	2単位	前期(30h)	
	作業療法学					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>人体を構成する組織・器官を植物性機能（生命維持に必須の機能）と動物性機能（運動に関連する機能）に分けて、前期は植物性機能を有する消化器・呼吸器・循環器・泌尿器・生殖器の形態と構造について学ぶ。各器官がどのように配置され、どんな形をして、どのような仕組みで機能しているのかを学習する。本授業は、人体を統合的に理解し、将来医療従事者として社会貢献するために必須の専門基礎科目である。本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目であり、臨床専門科目を学ぶ際に極めて有用となる。また、知識の修得だけでなく、生命に対する敬意を育むことによって豊かな人間性と広い教養を身に付けることができる。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体腔の概念を理解し、そこに含まれる器官の配置と関連性を理解することができる 2. 消化・吸収機能を持つ器官の形態と構造について、正確に理解することができる 3. 呼吸と発声を行う器官の形態と構造について、正確に理解することができる 4. 心臓を中心とした血液循環器系およびリンパ系について、正確に理解することができる 5. 泌尿器系での尿生成、生殖器系での精子形成・性周期について、正確に理解することができる 					
対面授業の 進め方	<p>講義を行う。図の豊富な配布資料やスライドなど教育機器を適切に利用し、適宜板書を加えて解説する。毎回の課題の実施とフィードバックによって理解不足の項目を明確にする。アクティブラーニング手法を取り入れ、前もって調べてきたことや授業で学んだことに対して教員と学生間及び学生間同士での意見交流を行う。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、状況により課題の郵送、メールによる配信、Microsoft office365 の Teams を使用した双方向通信の授業のいずれかあるいは組み合わせで行う。遠隔授業時の出席確認は毎回の課題の提出により行い、質疑応答については課題の提出に併せて上記通信方法のいずれかで行う。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 解剖学とは（形態と機能）－基礎医学における解剖学の位置、解剖学の種類、解剖学用語、人体の区分・体腔 pp.3－8			高校での生物学の基礎知識および漢字・英語能力			
2. 人体の構成－細胞、細胞小器官、細胞分裂・染色体、組織、器官、系統 pp.9－20			前回の講義内容の復習と課題			
3. 人体の発生－胚子の発生、胚葉の形成、各器官系の発生、鰓弓から発生する骨と筋 pp.21－36			前回の講義内容の復習と課題			
4. 消化器系Ⅰ－内臓器官の基本構造 pp.333－334、口腔、舌、歯、唾液腺、咽頭、食道 pp.370－373			前回の講義内容の復習と課題			
5. 消化器系Ⅱ－胃、小腸（十二指腸・空腸・回腸）、大腸（盲腸・結腸・直腸）、消化・吸収のしくみ pp.373－378			前回の講義内容の復習と課題			
6. 消化器系Ⅲ－肝臓（構造と機能）、胆嚢、膵臓（外分泌部と内分泌部）、腹膜、嚥下のしくみ pp.378－383			前回の講義内容の復習と課題			
7. 呼吸器系Ⅰ－鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭軟骨・筋、気管・気管支、発声のしくみ p.360－366			前回の講義内容の復習と課題			
8. 呼吸器系Ⅱ－肺、肺区域、肺泡、胸膜・縦隔、呼吸のメカニズム pp.366－369			前回の講義内容の復習と課題			

9. 循環器系Ⅰ－血管（動脈・静脈・毛細血管）、体循環・肺循環、心臓の構造と栄養血管、刺激伝導系 pp.335－341		前回の講義内容の復習と課題			
10. 循環器系Ⅱ－動脈系（大動脈と主な動脈及びその枝） pp.341－350		前回の講義内容の復習と課題			
11. 循環器系Ⅲ－静脈系（伴行静脈、皮静脈、硬膜静脈洞、門脈と側副循環路、奇静脈）、胎児循環、リンパ管、リンパ性器官 pp.350－359		前回の講義内容の復習と課題			
12. 泌尿器系－腎臓、ネフロン（腎小体、尿細管）、尿生成のしくみ、尿管、膀胱、尿道、畜尿と排尿のメカニズム pp.384－389		前回の講義内容の復習と課題			
13. 生殖器系－男性生殖器：精巣、精子形成、精巣上体、精管 pp.390－392, 女性生殖器：卵巣、卵管、子宮、卵巣・子宮周期のしくみ pp.390－397		前回の講義内容の復習と課題			
14. 内分泌系－内分泌線と外分泌線、ホルモンと標的器官・受容体、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎 pp.398－404		前回の講義内容の復習と課題			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート 0%	■定期試験 80%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業中に実施する課題を20%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択形式で出題し、その成績を80%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村巖	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版		医学書院	2024
参考図書	細田多穂 監修	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 運動器系解剖学テキスト		南江堂	2015
	佐藤達夫 訳	人体解剖カラーアトラス 原著第8版		南江堂	2021
	相磯貞和 訳	ネッター解剖学アトラス 原書第7版		南江堂	2022
	坂井建雄	カラー図解 人体の正常構造と機能 第5版		日本医事新報社	2025
履修要件等	特段なし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階第8研究室		オフィスアワー	木曜 12:10～13:00	

科目No.	FBM01-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域 I		担当教員 E-Mail	大籠 友博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション	基礎医学		選択必修	2単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>人体を構成する組織・器官を植物性機能（生命維持に必須の機能）と動物性機能（運動に関連する機能）に分けて、前期は植物性機能を有する消化器・呼吸器・循環器・泌尿器・生殖器の形態と構造について学ぶ。各器官がどのように配置され、どんな形をして、どのような仕組みで機能しているのかを学習する。本授業は、人体を統合的に理解し、将来医療従事者として社会貢献するために必須の専門基礎科目である。本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目であり、臨床専門科目を学ぶ際に極めて有用となる。また、知識の修得だけでなく、生命に対する敬意を育むことによって豊かな人間性と広い教養を身に付けることができる。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体腔の概念を理解し、そこに含まれる器官の配置と関連性を理解することができる 2. 消化・吸収機能を持つ器官の形態と構造について、正確に理解することができる 3. 呼吸と発声を行う器官の形態と構造について、正確に理解することができる 4. 心臓を中心とした血液循環器系およびリンパ系について、正確に理解することができる 5. 泌尿器系での尿生成、生殖器系での精子形成・性周期について、正確に理解することができる 					
対面授業の 進め方	<p>講義を行う。図の豊富な配布資料やスライドなど教育機器を適切に利用し、適宜板書を加えて解説する。毎回の課題の実施とフィードバックによって理解不足の項目を明確にする。アクティブラーニング手法を取り入れ、前もって調べてきたことや授業で学んだことに対して教員と学生間及び学生間同士での意見交流を行う。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、状況により課題の郵送、メールによる配信、Microsoft office365 の Teams を使用した双方向通信の授業のいずれかあるいは組み合わせで行う。遠隔授業時の出席確認は毎回の課題の提出により行い、質疑応答については課題の提出に併せて上記通信方法のいずれかで行う。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 解剖学とは（形態と機能）－基礎医学における解剖学の位置、解剖学の種類、解剖学用語、人体の区分・体腔 pp.3－8			高校での生物学の基礎知識および漢字・英語能力			
2. 人体の構成－細胞、細胞小器官、細胞分裂・染色体、組織、器官、系統 pp.9－20			前回の講義内容の復習と課題			
3. 人体の発生－胚子の発生、胚葉の形成、各器官系の発生、鰓弓から発生する骨と筋 pp.21－36			前回の講義内容の復習と課題			
4. 消化器系Ⅰ－内臓器官の基本構造 pp.333－334、口腔、舌、歯、唾液腺、咽頭、食道 pp.370－373			前回の講義内容の復習と課題			
5. 消化器系Ⅱ－胃、小腸（十二指腸・空腸・回腸）、大腸（盲腸・結腸・直腸）、消化・吸収のしくみ pp.373－378			前回の講義内容の復習と課題			
6. 消化器系Ⅲ－肝臓（構造と機能）、胆嚢、膵臓（外分泌部と内分泌部）、腹膜、嚥下のしくみ pp.378－383			前回の講義内容の復習と課題			
7. 呼吸器系Ⅰ－鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭軟骨・筋、気管・気管支、発声のしくみ p.360－366			前回の講義内容の復習と課題			
8. 呼吸器系Ⅱ－肺、肺区域、肺泡、胸膜・縦隔、呼吸のメカニズム pp.366－369			前回の講義内容の復習と課題			
9. 循環器系Ⅰ－血管（動脈・静脈・毛細血管）、体循環・肺循環、心臓の構造と栄養血管、刺激伝導系 pp.335－341			前回の講義内容の復習と課題			

10. 循環器系Ⅱ－動脈系（大動脈と主な動脈及びその枝） pp.341－350		前回の講義内容の復習と課題			
11. 循環器系Ⅲ－静脈系（伴行静脈、皮静脈、硬膜静脈洞、門脈と側副循環路、奇静脈）、胎児循環、リンパ管、リンパ性器官 pp.350－359		前回の講義内容の復習と課題			
12. 泌尿器系－腎臓、ネフロン（腎小体、尿細管）、尿生成のしくみ、尿管、膀胱、尿道、畜尿と排尿のメカニズム pp.384－389		前回の講義内容の復習と課題			
13. 生殖器系－男性生殖器：精巣、精子形成、精巣上体、精管 pp.390－392, 女性生殖器：卵巣、卵管、子宮、卵巣・子宮周期のしくみ pp.390－397		前回の講義内容の復習と課題			
14. 内分泌系－内分泌線と外分泌線、ホルモンと標的器官・受容体、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎 pp.398－404		前回の講義内容の復習と課題			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50% □レポート 0%		■定期試験 50% □その他 0%	
	基準等	毎回の授業中に実施する課題を50%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択形式で出題し、その成績を50%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村巖	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版		医学書院	2024
参考図書	細田多穂 監修	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 運動器系解剖学テキスト		南江堂	2015
	佐藤達夫 訳	人体解剖カラーアトラス 原著第8版		南江堂	2021
	相磯貞和 訳	ネッター解剖学アトラス 原書第7版		南江堂	2022
	坂井建雄	カラー図解 人体の正常構造と機能 第5版		日本医事新報社	2025
履修要件等	特段なし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階第8研究室	オフィスアワー	木曜 12:10～13:00		

科目No.	FBM02-1R、FBM02-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域Ⅱ(含演習)		担当教員 E-Mail	山岸 直子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	後期(30h)
	作業療法学					
	ヘルスプロモーション	基礎医学		選択必修		
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>前期(形態・機能学解剖領域Ⅰ)の内容をベースとし、後期では、動物性機能(運動に関連する機能)を有する骨、関節・靭帯、筋、神経、感覚器の形態と構造について学ぶ。各器官がどのように配置され、どんな形をして、どのような仕組みで機能しているのかを学習する本授業は、人体を統合的に理解し、将来医療従事者として社会貢献するために必須の専門基礎科目である。本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目であり、臨床専門科目を学ぶ際に極めて有用となる。また、知識の修得だけでなく、生命に対する敬意を育むことによって豊かな人間性と広い教養を身に付けることができる。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨、関節・靭帯、筋からなる運動器系の形態と構造について、正確に理解することができる 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて、正確に理解することができる 3. 上・下行性伝導路について、その経路と機能を正確に理解することができる 4. 皮膚感覚器および深部感覚器の構造とその伝導路について、正確に理解することができる 5. 特殊感覚器の構造とその伝導路について、正確に理解することができる 					
対面授業の 進め方	<p>講義を行う。図の豊富な配布資料やスライドなど教育機器を適切に利用し、適宜板書を加えて解説する。毎回のミニテストの実施とフィードバックで理解不足な項目を明確にする。アクティブラーニング手法を取り入れ、前もって調べてきたことや授業で学んだことに対して教員と学生間及び学生間同士での意見交流を行う。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、状況により課題の郵送、メールによる配信、Microsoft office365のteamsを使用した双方向通信の授業のいずれかあるいは組み合わせで行う。遠隔授業時の出席確認は毎回の課題の提出により行い、質疑応答については課題の提出に併せて上記通信方法のいずれかで行う。</p>					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 骨格総論ー形状による分類、骨の肉眼的・顕微鏡的構造、骨の発生とリモデリング、破骨細胞、骨芽細胞 pp.37-45				前期講義内容の復習		
2. 関節・靭帯総論ー骨の連結、関節の種類・構造・分類、関節の機能(凹凸の法則・てこ)、上下肢の主要靭帯、pp.97-112				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
3. 筋系総論ー筋組織の種類と特徴、筋収縮メカニズム、筋細胞と筋膜、筋の起始・停止、筋の作用・運動 pp.161-176				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
4. 神経系総論ーニューロン・シナプス・神経伝達物質・グリア、中枢・末梢神経系、灰白質・白質、髄膜・脳室、脳・脊髄の発生 pp.229-240				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
5. 脳神経Ⅰー第1~6脳神経の線維構成と機能 pp.300-305				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
6. 脳神経Ⅱー第7~12脳神経の線維構成と機能 pp.305-311				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
7. 中枢神経Ⅰー大脳半球(終脳):外表面、皮質・髄質の構造、皮質の機能局在(運動・感覚・言語野)、大脳基底核 pp.258-267				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
8. 中枢神経Ⅱー脊髄(灰白質の神経核と白質の神経路)、前根、後根、延髄(神経核、神経線維束、錐体交叉) pp.241-249				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		

9. 中枢神経Ⅲ－橋、中脳、小脳（区分、小脳脚、小脳核、小脳の入出力）、間脳（視床の神経核） pp.249－258		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
10. 自律神経系－交感神経、副交感神経 pp.311－314, 脊髄神経－前根・後根、脊髄神経節、前枝・後枝、皮節 pp.278－280		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
11. 感覚器系Ⅰ－皮膚の構造、皮膚感覚器、視覚器（眼球、毛様体、虹彩、網膜、視神経、外眼筋と眼球運動） pp.319－326		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
12. 感覚器系Ⅱ－平衡聴覚器（外・中・内耳、卵形嚢、球形嚢、半規管、蝸牛管、コルチ器）、味覚器 pp.326－331		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
13. 神経路Ⅰ－上行性神経路：体性感覚（皮膚覚、深部覚）、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚の各神経路 pp.268－274		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
14. 神経路Ⅱ－下行性神経路：錐体路系（皮質脊髄路、皮質核路）、錐体外路系（赤核脊髄路・視蓋脊髄路・前庭脊髄路・網様体脊髄路） pp.274－277		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート 0%	■定期試験 80%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業中に実施する小テストを20%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択で出題し、その成績を80%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村巖	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学第6版」		医学書院	2020
参考図書	寺島俊雄	「カラー図解 神経解剖学講義ノート」		金芳堂	2011
	細田多穂 監修	「シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 運動器系解剖学テキスト」		南江堂	2015
	相磯貞和 訳	「ネッター解剖学 アトラス 原書第7版」		南江堂	2022
	坂井建雄	カラー図解 人体の正常構造と機能 第5版		日本医事新報社	2025
履修要件等	特段なし				
オープンな教育リソース					
研究室	非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける		

科目№	FBM03-1R、FBM03-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学生理領域 I		担当教員 E-Mail	中村 美砂		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能 及び身体の発達		必修	2 単位	前期 (30h)
	作業療法学					
	ヘルス プロモーション	基礎医学		選択必修		
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	生理学は、正常な人体の機能を探究し、人体の働きの基盤となる生命現象を理解することを目的とする学問である。さまざまな病態を理解するための基礎となる重要な学問分野である。本講義では、生命現象の基礎として、細胞の構造と機能、体液の働き、食物の消化・吸収・代謝・排泄の仕組み、神経による情報伝達機構、ならびに体の状態を一定に保つ恒常性（ホメオスタシス）システムのうち、内分泌系および免疫系について学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルにわたって機能する生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象に関する基本的知識を身につけ、生命を支える人体の仕組みを説明できる。 					
対面授業の 進め方	授業は、教科書と配布プリントに沿って行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔での実施になった場合は、Teams-Stream にての動画配信をベースに進める。課題やレポートは Teams-Form により課す。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 総論（細胞の構造と働き 教科書 pp. 1-12)				pp.13 の mini test の解説をノートにまとめる		
2. 神経 I（ニューロンと支持細胞、興奮と伝達、シナプス伝導 教科書 pp. 14-26)				pp.42 の mini test の解説をノートにまとめる		
3. 神経 I（中枢神経と末梢神経 教科書 pp. 26-37)				pp.42 の mini test の解説をノートにまとめる		
4. 神経 III（脳波と睡眠、脳脊髄液 教科書 pp. 37-41)				pp.42 の mini test の解説をノートにまとめる		
5. [中間テスト 1] 呼吸（呼吸器の構造、呼吸運動 教科書 pp. 111-115) 循環（心臓の構造と働き 教科書 pp. 128-132)				pp.127,152 の mini test の解説をノートにまとめる		
6. 血液・免疫機能 I（血液の成分と働き、止血の仕組み pp. 153-163)				pp.175 の mini test の解説をノートにまとめる		

7. 血液・免疫機能 II (血液型、免疫機能 教科書 pp. 163-175)		pp.175 の mini test の解説をノートにまとめる			
8. 消化・吸収 (各消化器系の消化と吸収 教科書 pp. 176-195)		pp.195 の mini test の解説をノートにまとめる			
9. 栄養と代謝 (三大栄養素 教科書 pp. 232-246)		pp.246 の mini test の解説をノートにまとめる			
10. [中間テスト2] 腎臓と尿の排泄 (腎循環、尿の生成、教科書 pp. 196-210)		pp.210 の mini test の解説をノートにまとめる			
11. 内分泌 I (ホルモンの作用機序と分泌調節、内分泌腺から分泌されるホルモン 教科書 pp. 211-206)		pp.231 の mini test の解説をノートにまとめる			
12. 内分泌 II (各内分泌臓器とホルモン 教科書 pp. 191-206)		pp.231 の mini test の解説をノートにまとめる			
13. [中間テスト3]生殖 (生殖機能、妊娠と分娩教科書 pp. 257-270)		pp.270 の mini test の解説をノートにまとめる			
14. 老化 (老化と寿命、高齢者の生理機能 pp. 271-282)		pp.282 の mini test の解説をノートにまとめる			
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)		試験で不正解の領域をもう一度復習する。			
成績評価方法	項目	■中間・小テスト 30%	□レポート 0%	■定期試験 70%	□その他 0%
	基準等	中間テストを3回行う		中間テストと合わせて評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	生友聖子・志村まゆら・鈴木敦子・玉木徹 著	最新リハビリテーション基礎講座 生理学		医歯薬出版	2025
参考図書	桑名俊一 編著	メディカルスタッフ専門基礎科目 シリーズ 新版 生理学		理工図書	2020
履修要件等	特になし。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第10研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:30~13:30		

科目№	FBM04-1R、FBM04-1E		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学生理領域Ⅱ (含演習)		担当教員 E-Mail	坪田 裕司 科目の Teams クラスがあります		
基本項目	専 攻	科 目 区 分	単 位 数		履修期間	
	理学療法学	基礎医学、人体の構造 と機能及び身体の発達	必 修	1 単位	後 期 (30h)	
	作業療法学					
	ヘルスプロモーション	基礎医学	選択必修			
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	生理学は、本学のディプロマ・ポリシーにある専門基礎領域科目であり、その基本的学力を身につけた人になるための科目である。身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもないので、生理学では、人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について学習し、生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルまで機能している生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象における基本的な知識を学習して、今生きている、命を支えている体の仕組みを説明出来る。 					
対面授業の 進め方	教科書を読んでおよその講義内容を把握しておくこと。国試はもちろん専門科目の基礎として重要な内容ばかりであるから、授業で触れられなかった部分も含め充分な予習復習が重要である。					
遠隔授業の 進め方	遠隔での実施になった場合は、Teams-Stream にての動画配信をベースに進める。課題やレポートは Teams-Form により課す。					
授業計画			授業時間外に必要な学修	30 分以上		
1. 筋と収縮（筋組織、骨格筋、興奮収縮連関、心筋と平滑筋、教科書 pp.43 - 57）、演習課題と班の発表			pp.33 の学修のねらい各項目をノートにまとめる			
2. 筋と筋感覚、筋反射（運動と反射、筋紡錘、筋緊張の調節、教科書 pp.58 - 66)			pp.58 の学修のねらい各項目をノートにまとめる			
3. 筋反射、運動制御（筋電図、随意運動、運動学習、教科書 pp.66 - 76)			pp.58 の学修のねらい各項目をノートにまとめる			
4. 運動とエネルギー（筋の代謝、ATP 産生経路、運動時のエネルギー、運動負荷と心拍数、基礎代謝、METs、トレーニング、教科書 pp.52 - 53, 239-241)			Pp.43, 232 の学修のねらい関連項目をノートにまとめる			
5. 感覚Ⅰ（感覚総論、体性感覚、内臓感覚、特殊感覚、視覚、教科書 pp.77 - 87)			pp.77 の学修のねらい各項目をノートにまとめる			
6. 感覚Ⅱ（聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、感覚と認知、教科書 pp. 87 - 101)			pp.77 の学修のねらい各項目をノートにまとめる			

7. 演習課題グループワーク（演習課題（前回講義までの範囲の PTOT 国試過去問）を班に分かれて学習、発表する。		講義 1-6 の範囲関連の PTOT 国試過去問の復習に活かす			
8. 自律神経と高次脳（脳の復習、本能、記憶と学習、統合機能、自律神経、自律反射、教科書 pp. 102 - 110）		pp.102 の学修のねらい各項目をノートにまとめる			
9. 体温調節(体温と調節、発熱と発汗、教科書 pp.247 - 256)		pp.247 の学修のねらい各項目をノートにまとめる			
10. 呼吸と呼吸調節 I（呼吸とガスの運搬、呼吸機能、教科書 pp. 119 - 123）		pp.111 の学修のねらい関連項目をノートにまとめる			
11. 呼吸と呼吸調節 II（呼吸中枢と関連受容器、呼吸調節、教科書 pp. 123 - 127）		pp.111 の学修のねらい関連項目をノートにまとめる			
12. 循環と循環調節 I（循環総論、リンパ循環、心電図、教科書 pp. 133 - 143）		pp.128 の学修のねらい各関連項目をノートにまとめる			
13. 循環と循環調節 II（循環中枢と関連受容器、循環反射と調節、教科書 pp. 144 - 152）		pp.128 の学修のねらい関連項目をノートにまとめる			
14. 体液の平衡（体液量、pH 調節、アシドーシスとアルカローシス、教科書 pp. 122 - 125, 205-206）		Pp.111, 196 の学修のねらい関連項目をノートにまとめる			
定期試験					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■演習 15%	■レポート 0%	■定期試験 80%	■その他 5%
	基準等	7 回目の演習課題の達成度で評価する	演習評価に含む	定期試験にて評価する	講義への参加度合いで評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	生友聖子・志村まゆら・鈴木敦子・玉木徹 著	最新リハビリテーション基礎講座生理学		医歯薬出版	2025
参考図書	桑名俊一 他編著	「メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 新版 生理学」		理工図書	2020
履修要件等	形態・機能学生理領域 I 履修済みもしくは再履修予定であること。				
オープンな教育リソース					
研究室	非常勤なのでありません	オフィスアワー			

科目No.	FBM05-1R、FBM05-1E		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖生理学実習 I (PT/OT/HP)		担当教員 E-Mail	大竈 友博、村上 達典		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び 身体の発達		必修	1単位	前期(30h)
	作業療法学					
	ヘルスプロモーション	基礎医学	選択必修			
教員の実務経験と 授業内容の関連	生理学実習では理学療法士として臨床実務経験が12年あり、3学会合同呼吸療法認定士の資格を有する教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	<p>本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成・協調性の養成」を達成するための科目である。知識としては、形態・機能学解剖領域Iいわゆる解剖学座学で学んでいる知識と並行して、特にリハビリテーション領域において必須となる基礎知識として骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。具体的には筋や骨格がどのように配されて、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手に触れ部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深めることで、高学年の運動学の学修にも直結する。思考力は、予習プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に付けてゆく。協調性は、Team Based Learning (TBL) 形式の実習によって協調性やコミュニケーション能力を身に付けてゆく。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる 5. 予習には単なる穴埋めでなく、教科書の中から解答を自力で探し出す「探索力」の獲得も視野に入れるため、具体的な教科書のページ数までは敢えて記載しない。 					
対面授業の 進め方	<p>教員による一方的な講義ではなく、学生が自ら体を動かして学ぶ実習(アクティブラーニング)を原則とする。学生を2人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱・交連模型を貸与してTBL形式で進行する。さらに毎回、予備学習プリントを配布するので予習を実施すること。主に実習中あるいは復習用の課題材料としてスケッチ課題を与え、これらは最終成績の一部として取り組みに応じた加点をする。いずれも学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズである。対面実習では、毎回チェックリストや実習要領を配布するので、それに従って実習を進行する。各回の最後には確認試問を行い、成績に加味する。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>原則対面授業で進める。遠隔講義が必要になった場合は、Streamによる講義動画配信とFormsによる小テストの提出によって実施する。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 骨学実習/ガイダンス・総論・全身骨格の配置と名称			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
2. 骨学実習/椎骨の種類と数、脊柱・脊柱湾曲			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
3. 骨学実習/上肢帯と胸郭の骨(鎖骨、肩甲骨)と肋骨、胸骨			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
4. 骨学実習/自由上肢の骨(上腕骨、前腕骨、手根骨)			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
5. 関節学実習/主な関節の構造と運動の種類、腕神経叢の構成			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			

6. 筋学実習／上肢帯の筋（僧帽筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、前鋸筋、大・小胸筋）		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
7. 筋学実習／上腕の筋（上腕前面の筋、上腕後面の筋）		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
8. 筋学実習／前腕前面の筋（浅層、手関節屈筋群）		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
9. 筋学実習／前腕前面の筋（深層、手関節および指関節屈筋群）		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
10. 筋学実習／前腕後面の筋（手関節および指関節伸筋群）		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
11. 筋学実習／手の筋Ⅰ母指球筋		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
12. 筋学実習／手の筋Ⅱ小指球筋と手掌筋		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
13. 筋学実習／体幹から上腕への筋／頸部前面の筋		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
14. 生理学実習／ヒト心電図の測定		配布されたプリントを基に復習を実施する。			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	■レポート 5%	■定期試験 80%	□その他 %
	基準等	授業内容を理解したかの確認試問、予備学習プリント、スケッチ課題を総合して15%換算する。	生理学実習のレポートを5%換算する	定期試験中での試験を80%換算して判定する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村巖	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版		医学書院	2024
参考図書	細田多穂	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 運動器系解剖学テキスト		南江堂	2015
	坂井建雄 松村譲児	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 第3版		医学書院	2017
	横山千仞 他	解剖学カラーアトラス 第9版		医学書院	2023
履修要件等	特段なし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第8研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:00～13:00	

科目No.	FBM06-1R、FBM06-1E		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖生理学実習Ⅱ (PT/OT/HP)		担当教員 E-Mail	大籠 友博、村上 達典		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能 及び身体の発達	必修	1単位	後期(30h)	
	作業療法学					
	ヘルスプロモーション	基礎医学	選択必修			
教員の実務経験と 授業内容の関連	生理学実習では理学療法士として臨床実務経験が12年あり、3学会合同呼吸療法認定士の資格を有する教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	<p>本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成・協調性の養成」を達成するための科目である。知識としては、形態・機能学解剖領域Ⅰいわゆる解剖学座学で学んでいる知識と並行して、特にリハビリテーション領域において必須となる基礎知識として骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。具体的には筋や骨格がどのように配されて、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手に触れ部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深めることで、高学年の運動学の学修にも直結する。思考力は、予習プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に付けてゆく。協調性は、Team Based Learning (TBL) 形式の実習によって協調性やコミュニケーション能力を身に付けてゆく。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を糸糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる 5. 予習には単なる穴埋めでなく、教科書の中から解答を自力で探し出す「探索力」の獲得も視野に入れるため、具体的な教科書のページ数までは取って記載しない。 					
対面授業の 進め方	<p>教員による一方的な講義ではなく、学生が自ら体を動かして学ぶ実習(アクティブラーニング)を原則とする。学生を3~4人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱・交連模型を貸与してTBL形式で進行する。さらに毎回、予備学習プリントを配布するので予習を実施すること。主に実習中あるいは復習用の課題材料としてスケッチ課題を与え、これらは最終成績の一部として取り組みに応じた加点をする。いずれも学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズである。対面実習では、毎回チェックリストや実習要領を配布するので、それに従って実習を進行する。各回の最後には確認試問を行い、成績に加点する。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>原則対面授業で進める。遠隔講義が必要になった場合は、Streamによる講義動画配信とFormsによる小テストの提出によって実施する。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 骨学実習/下肢の骨格照合、骨盤を構成する骨と大腿骨			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
2. 骨学実習/自由下肢の骨-脛骨、腓骨と股関節、膝関節の構造、運動、靭帯			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
3. 骨学実習/足根骨、中足骨の左右判定、半関節			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
4. 骨学実習/脳神経と通過する孔			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
5. 筋学実習/殿部の筋、大腿の筋膜			配布されたプリントを基に復習を実施する。次回の予備学習プリントを用いて予習する。			

6. 筋学実習／外旋 6 筋（上下双子筋、梨状筋、内外閉鎖筋、大腿方形筋）		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
7. 筋学実習／大腿前面の筋（大腿 4 頭筋、縫工筋など）		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
8. 腰仙骨神経叢の構成		配布されたプリントを基に復習を実施する。 該当部位について教科書の図の読み方を確認			
9. 筋学実習／大腿後面の筋（ハムストリングの筋）		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
10. 筋学実習／大腿内転の筋		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
11. 筋学実習／下腿前面の筋と側面の筋		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
12. 筋学実習／下腿後面の筋		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
13. 筋学実習／足部の筋		配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。			
14. 生理学実習／VO2max の測定と体力評価		配布されたプリントを基に復習を実施する。			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	■レポート 5%	■定期試験 80%	□その他 %
	基準等	授業内容を理解したかの確認試験、予備学習プリント、スケッチ課題を総合して15%換算する。	生理学実習のレポートを5%換算する	定期試験中での試験80%換算して判定する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村 嶺	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 6 版		医学書院	2024
参考図書	横山千仞 他	「解剖学カラーアトラス 第 9 版」		医学書院	2023
	坂井建雄	「プロメテウス解剖学アトラス 第 3 版 解剖学総論／運動器系」		医学書院	2017
履修要件等	特段なし				
オープンな教育リソース					
研究室	1 号館 5 階 第 8 研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12 : 00～13 : 00	

科目No.	FBM01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学		担当教員 E-Mail	大籠 友博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修	2単位	前期(30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成」を達成するための科目である。ヒトのからだは細胞から構成され、組織、器官、個体へと統合される。前期の本科目ではヒトのからだを植物性機能と動物性機能に分けて、植物性機能を有する各器官が身体のどこに配置され、どのような形態・構造・仕組みであるかを、組織学・細胞学、発生学などの多様な知見に立って正常系統的に学ぶ。また、機能学的な関連的側面からも考察を進め「人体」を総合的に理解してゆく。思考力は、復習プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に付けてゆく。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体腔という概念を理解し、そこに収まる器官の配置と関連性を理解することができる 2. 消化・吸収機能を持つ器官の形態と構造について、正確に理解することができる 3. 呼吸と発声メカニズムについての器官の形態と構造について、正確に理解することができる 4. 心臓を中心とした血液循環器系およびリンパ系について、正確に理解することができる 5. 泌尿器系での尿生成器官、生殖器系での生殖細胞発生について、正確に理解することができる 					
対面授業の 進め方	<p>講義形式。本講義ではスライド提示とハンドアウト資料への書き込みをメインとする形態で進めるが、適宜模型や質疑応答を用いたアクティブラーニング手法を取り入れる。ハンドアウト資料への主体的な書き込みを行うこと。イメージしにくい3次元構造や重要な点は、模型を用いたグループワークを行う。また講義の最後に、各回の復習用課題として穴埋め式問題を配布し、次の回の講義の冒頭で解答を提示する。これらは学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズである。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>対面講義で進めるが、復習のために Office365 Stream 上に講義動画を準備する。 講義内容に関する質問は随時メールでも受け付ける。</p>					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 解剖学総論—解剖学とは(形態と機能)—解剖学の考え方、生物学における解剖学の位置、解剖学の種類、解剖学的正位、解剖学用語と方向用語 pp.5-8				教科書の該当部分を一読しておくこと。 高校での生物学の基礎知識および国語の漢字能力		
2. 細胞、器官、系統、細胞内小器官とその機能、遺伝子とDNA、遺伝情報の仕組み、上皮と支持組織、器官から個体へ pp.8-20				教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施		
3. 消化器系Ⅰ—口腔、歯、舌、唾液腺とその分泌 pp.333-334、370-373				教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施		
4. 消化器系Ⅱ—咽頭、食道・胃・十二指腸の構造、消化管と腹膜 pp.361-362、373-378、380				教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施		
5. 消化器系Ⅲ—実質器官である肝臓、膵臓、胆嚢と胆汁分泌、血糖値の調節 pp.378-383				教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施		
6. 呼吸器系Ⅰ—鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、呼吸の仕組み p.360-366				教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施		
7. 呼吸器系Ⅱ—肺区域、縦隔、副鼻腔、発声のメカニズム pp.366-369				教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施		
8. 循環器系Ⅰ—体循環と肺循環、心臓の構造と特殊伝導系 pp.335-340				教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施		

9. 循環器系Ⅱー主な動脈とリンパ管、胎児循環 pp.340-350, 355-359		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
10. 循環器系Ⅲー門脈と側副循環路、硬膜静脈洞、奇静脈 pp.350-355		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
11. 泌尿器系ー腎臓の構造、尿の生成と血圧調整、膀胱、尿路 pp.384-389		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
12. 内分泌系ー内分泌線と外分泌線、膜タンパクと液性調節 pp.398-406		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
13. 自律神経系ー交感神経と副交感神経 pp.311-314		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
14. 生殖器系Ⅰー男性生殖器 pp.390-392、生殖器系Ⅱー女性生殖器、発生学 pp.392-397		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート 0%	■定期試験 80%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業後に配布する課題の点数を20%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋めで出題し、その成績を80%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村巖	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版		医学書院	2024
参考図書	相磯貞和 訳	ネッター解剖学カラーリングテキスト 原書第3版		南江堂	2024
履修要件等	特段なし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第8研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:00~13:00		

科目No.	FBM02-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学演習		担当教員 E-Mail	大籠 友博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成」を達成するための科目である。前期の解剖学Ⅱの内容を基礎として、後期では言語聴覚学で必要となる発生学および神経系を中心としての形態と構造を、組織学・細胞学、発生学などの多様な知見に立って正常系統的に理解する。また、機能的な側面からも考察して「人体」を総合的に理解してゆく。思考力は、復習プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に付けてゆく。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受精から出生までの器官形成について正確に理解することができる 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて正確に理解することができる 3. 上・下行性伝導路、特殊感覚路についてその経路と機能が正確に理解することができる 					
対面授業の 進め方	<p>講義形式。本講義ではスライド提示とハンドアウト資料への書き込みをメインとする形態で進めるが、適宜模型や質疑応答を用いたアクティブラーニング手法を取り入れる。ハンドアウト資料への主体的な書き込みを行うこと。イメージしにくい3次元構造や重要な点は、模型を用いたグループワークを行う。また講義の最後に、各回の復習用課題として穴埋め式問題を配布し、次の回の講義の冒頭で解答を提示する。これらは学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズである。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>対面講義で進めるが、復習のためにOffice365 Stream上に講義動画を準備する。 講義内容に関する質問は随時メールでも受け付ける。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 筋学1-総論、発声に関わる筋、咽頭と喉頭の構造 pp.161-176, 361-366			教科書の該当部分を一読しておくこと。			
2. 筋学2-咀嚼運動、嚥下反射とそれに関わる筋および神経 pp.178-184, 381-383			教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
3. 発生学1-配偶子形成、受精、着床、卵割、胚胞の形成 pp.21-24			教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
4. 発生学2-三層性胚盤、神経管、体節、消化管発生 pp.24-26			教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
5. 器官発生1-咽頭器官、舌、顔面 pp.28-29			教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
6. 器官発生2-呼吸器、耳の発生 pp.21-26			教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
7. 特殊循環-胎児循環、脳底動脈系、硬膜静脈洞 pp.352-355, 335, 340-344			教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
8. 脳神経1 第1~6脳神経と視覚器 pp.300-305, 323-326			教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
9. 脳神経2 第7~12脳神経と味覚、聴覚・平衡覚 pp.305-311, 326-332			教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
10. 中枢神経1 神経系の発生、中枢神経の区分とその機能、脳幹 pp.237-249			教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			

11. 中枢神経 2 大脳の区分と脳地図、機能局在、優位半球 pp.256-265		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
12. 中枢神経 3 下行性伝導路 pp.274-277		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
13. 中枢神経 4 上行性伝導路、特殊感覚路 pp.268-274		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
14. 中枢神経 5 大脳辺縁系、papez 回路 pp.259-261		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施			
定期試験 (定期試験期間における筆記試験で、資料は持ち込み不可)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート 0%	■定期試験 80%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業後に配布する課題の点数を20%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋めで出題し、その成績を80%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村 巖	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版		医学書院	2020
参考図書	相磯 貞和 訳	ネッター解剖学 カラーリングテキスト		南江堂	2011
	寺島 俊雄	カラー図解 神経解剖学講義ノート		金芳堂	2011
	ゲイリー C. シェーンウォルフ	カラー版 ラーセン 人体発生学 第4版		西村書店	2013
履修要件等	特段なし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第8研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:00~13:00	

科目No.	FBM03-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	生理学 (ST)		担当教員 E-Mail	堂西 倫弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修	2単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	命とは何か？ 生きているとはどういうことか？ 生理学ではこの問いを科学的に考えていく。本科目は本学のディプロマ・ポリシーの1つ「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」およびカリキュラム・ポリシー（1年次）に則り、正常な人体を維持するための細胞、組織や器官のはたらきについて学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な人体のはたらきを説明できる 2. 専門分野の学習へ向けて、正常な聴覚について説明できる 3. 解剖学および臨床医学との関連を説明できる 					
対面授業の 進め方	教科書、スライドを使用する。適宜、演習を行う。 教科書の内容を丸暗記させず、実体験にもとづいて人体のはたらきを理解するよう促す。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、Microsoft office365 の Teams を利用して授業のライブ配信を行う					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1.	第1章：生理学の基礎		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
2.	第2章：神経の基本的機能		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
3.	第3章：神経系の機能		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
4.	第4章：感覚の生理		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
5.	第5章：筋肉・運動の生理		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
6.	第6章：運動の制御機構		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
7.	第7章：血液の生理		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
8.	第8章：生体防御 / 第9章：循環の生理		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
9.	第10章：呼吸		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
10.	第11章：消化・吸収		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
11.	第12章：栄養・代謝		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			

12. 第13章：腎臓の生理 / 第14章：体液の恒常性		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
13. 第15章：内分泌		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
14. 第16章：体温の調節 / 第17章：成長と老化		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
定期試験					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10 %	○レポート %	■定期試験 80 %	■その他 10 %
	基準等	復習のための課題を随時実施し、理解度を評価する		定期試験で講義内容全般についての理解度を評価する	授業への取り組み方を評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	桑田俊一・荒田晶子	「メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 精解 生理学」		理工図書	2025
参考図書	Kim E. Barrett 他著 岡田泰伸 他訳	「ギャノン生理学 原書 26 版」		丸善	2022
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FBM07-1R, FBM07-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	運動学		担当教員 E-Mail	佐伯 純弥		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び 身体の発達		必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		選択必修		
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として10年以上の実務経験を持つ教員が、臨床経験をもとに身体運動のしくみについて講義を行う。					
授業内容の要約	姿勢の調整や身体の運動について力学的に説明する方法を、身近な例や演習を用いながら学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動の力学的な背景や、用語・公式を説明することができる。 2. 身体重心や関節モーメントを計算することができる。					
対面授業の 進め方	講義・演習を主体とした授業とし、演習はディスカッションを伴うアクティブラーニングとする。授業に用いる資料は適宜配布する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業の場合、Microsoft office365 Teams を利用して講義を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 重さと質量、身体の重心			授業内容の復習			
2. 力の合成と分解、作用と反作用			授業内容の復習			
3. 並進運動と運動の法則			授業内容の復習			
4. 回転運動①(テコ、骨格筋のしくみ)			授業内容の復習			
5. 回転運動②(関節運動と関節モーメント)			授業内容の復習			
6. エネルギーとパワー			授業内容の復習			
7. これまでの復習、理解度の確認			授業内容の復習			
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	小テスト・課題の取り組み状況を評価する		授業内容の理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
参考図書	江原義弘	姿勢と運動の力学がやさしくわかる本		ナツメ社	2020	
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館5階 第3共同研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00		

科目No.	FBM07-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	運動学		担当教員 E-Mail	PT 教員		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	基礎医学	選択必修	1単位	前期(16h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として10年以上の実務経験のある教員が、その経験をもとに身体運動のしくみについて講義を行う。					
授業内容の要約	ヒトの様々な姿勢や運動がどのようにして成り立っているのか、運動中にはカラダになにが起こっているのかについて、実際に身体を動かしながら学ぶ。					
学修目標 到達目標	ヒトが運動するときに生じる筋肉や関節の動きについて理解する。 運動に伴う、呼吸器、循環器系の反応について理解する					
対面授業の 進め方	講義・演習を主体とした授業とし、演習はディスカッションを伴うアクティブラーニングとする。授業に用いる資料は適宜配布する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業の場合、Microsoft office365 Teams を利用して講義を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 「動くこと」の科学 ヘルスプロモーションに「動くこと」が必要な理由。「動く」ために必要なメカニズム			学習ふりかえりレポートの作成			
2. 運動器①：エンジンの仕組み（筋肉と骨） 骨格筋が伸び縮み（収縮）するメカニズム。関節の動き。随意運動の指令の仕組み			学習ふりかえりレポートの作成			
3. 運動器②：姿勢を保つ際の動き 抗重力筋の働き。重心とバランスを維持するメカニズム。			学習ふりかえりレポートの作成			
4. エネルギー代謝：動くための「燃料」づくり ATP について。有酸素運動と無酸素運動の違い。			学習ふりかえりレポートの作成			
5. 呼吸器：「動く」ために必須な酸素 運動時の呼吸の変化。横隔膜の動きとガス交換。運動に伴って「息があがる」仕組み			学習ふりかえりレポートの作成			
6. 循環器：全身へ燃料を運ぶポンプと配管 心拍数と血圧の変化。運動時に筋肉へ血流が集中する仕組み。心拍出量の調節メカニズム。			学習ふりかえりレポートの作成			
7. 運動時の全身ネットワーク 運動開始直後の「脳・心臓・肺・筋肉」の同時多発的な反応。自律神経によるコントロール。			学習ふりかえりレポートの作成			
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	■レポート 70%	□定期試験	%	□その他 %
	基準等	小テスト・課題の取り組み状況を評価する	学習ふりかえりレポートの提出状況、内容を評価する。			
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
参考図書	中島雅美	運動・からだ図解 生理学の基本		マイナビ出版	2024	

履修要件等			
オープンな 教育リソース			
研究室		オフィスアワー	

科目No.	FBM08-1R、FBM05-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	病理学		担当教員 E-Mail	中村 美砂		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	2単位	後期(30h)
	作業療法学					
言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	「病気はどんな原因で起こり、体にどういふ変化を起こすか」を学ぶ。病気の原因(病因)、発生の仕組みを理解し、これを基に身体に現れる変化(病変)を学修し、病気についての正しい理解を行う。疾病の概論を理解した後に、個体の発生異常、細胞や組織レベルでの変性や退行、循環器障害、免疫不全や障害、炎症、感染症、腫瘍、代謝異常、老化などについて理解する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学用語を定義に従って用いることができる 2. 各種病気の成り立ち、病因について、形態学的変化と関連させて説明できる 3. 臨床医学における病理診断の役割を説明できる 					
対面授業の 進め方	授業は、教科書と配布プリントに沿って行う。解剖学や生理学などの知識が必要となるので、これらを復習しながら受講すること。					
遠隔授業の 進め方	対面授業が出来なくなった場合、Teamsによるオンライン講義とStreamによる動画配信によって行う。毎回、課題の提出をもって出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 病理学とは何か。細胞障害と細胞増殖(細胞障害 教科書 pp.1~22)			進行性病変と退行性病変についてまとめる。			
2. 組織、細胞の修復と再生(創傷治癒 教科書 pp.23~32)			創傷治癒の過程についてまとめる。			
3. 循環障害Ⅰ(梗塞循環器系の基礎 教科書 pp.33~41)			局所的循環障害とまとめる。			
4. 循環障害Ⅱ(循環障害 教科書 pp.41~48)			全身的循環障害についてまとめる。			
5. 炎症(急性炎症・慢性炎症 教科書 pp.49~60)			急性炎症と慢性炎症についてまとめる。			
6. 感染症(感染症 教科書 pp.61~70)			病原体の種類とそれらによって生じる感染症をまとめる。			
7. 免疫機構の異常Ⅰ(免疫系の基礎 教科書 pp.71~81)			アレルギー反応の分類とそれぞれの代表的疾患についてまとめる。			
8. 免疫機構の異常Ⅱ(免疫疾患 教科書 pp.82~85)			自己免疫疾患についてまとめる			
9. 遺伝と先天異常(遺伝性疾患 教科書 pp.87~101)			代表的な染色体異常症および遺伝性疾患についてまとめる。			
10. 腫瘍Ⅰ(腫瘍の性質 教科書 pp.103~108)			腫瘍の概念と命名法についてまとめる。			
11. 腫瘍Ⅱ(腫瘍の原因・転移 教科書 pp.109~126)			悪性腫瘍の進展と転移様式についてまとめる。			
12. 代謝異常Ⅰ(タンパク質・脂質代謝・糖・ミネラル代謝の異常 教科書 pp.127~135)			脂質代謝異常症などの原因と病態についてまとめる。			
13. 代謝異常Ⅱ(タンパク質・脂質代謝・糖・ミネラル代謝の異常 教科書 pp.127~135)			糖代謝異常症の原因と病態についてまとめる。			
14. 老化(老化に伴う疾患 教科書 pp.137~150)			老化に伴う疾患の病理についてまとめる。			
定期試験(期末)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)			試験で不正解の領域をもう一度復習する。			

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	□レポート %	■定期試験 60%	□その他 %
	基準等	毎週、前回の内容について確認テスト(13回)を実施し、理解度を評価する。		全講義の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	笹野公伸 他	シンプル病理学 改訂第8版		南江堂	2020
参考図書	北川昌伸・仁木利郎	標準病理学 第7版		医学書院	2023
履修要件等	受講にあたり、教科書を必ず購入すること。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第10研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:30~13:30		

科目No	FBM08-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	病理学		担当教員 E-Mail	宇都宮 洋才		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	基礎医学	必修	2 単位	後期 (30h)	
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	「病気はどんな原因で起こり、体にどのような変化を起こすか」を学ぶ。病気の原因 (病因)、発生の仕組みを理解し、これを基に身体に現れる変化 (病変) を学修し、病気についての正しい理解を行う。疾病の概論を理解した後に、個体の発生異常、細胞や組織レベルでの変性や退行、循環器障害、免疫不全や障害、炎症、感染症、腫瘍、代謝異常、老化などについて理解する。					
学修目標 到達目標	病理学とは何かを理解してもらう ヘルスプロモーションにおける病理学についても考える					
対面授業の 進め方	授業は、教科書と必要に応じてパワーポイントを使用して行う。					
遠隔授業の 進め方	対面授業の他に、Teams によるオンライン講義と Stream による動画配信によって行う。それぞれの課題の提出をもって出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 病理学とは何か。細胞障害と細胞増殖 (細胞障害 教科書 pp.1~22)			進行性病変と退行性病変についてまとめる。			
2. 組織、細胞の修復と再生 (創傷治癒 教科書 pp.23~32)			創傷治癒の過程についてまとめる。			
3. 循環障害 I (梗塞循環器系の基礎 教科書 pp.33~41)			局所的循環障害とまとめる。			
4. 循環障害 II (循環障害 教科書 pp.41~48)			全身的循環障害についてまとめる。			
5. 炎症 (急性炎症・慢性炎症 教科書 pp.49~60)			急性炎症と慢性炎症についてまとめる。			
6. 感染症 (感染症 教科書 pp.61~70)			病原体の種類とそれらによって生じる感染症をまとめる。			
7. 免疫機構の異常 I (免疫系の基礎 教科書 pp.71~81)			アレルギー反応の分類とそれぞれの代表的疾患についてまとめる。			
8. 免疫機構の異常 II (免疫疾患 教科書 pp.82~85)			自己免疫疾患についてまとめる			
9. 遺伝と先天異常 (遺伝性疾患 教科書 pp.87~101)			代表的な染色体異常症および遺伝性疾患についてまとめる。			
10. 腫瘍 I (腫瘍の性質 教科書 pp.103~108)			腫瘍の概念と命名法についてまとめる。			
11. 腫瘍 II (腫瘍の原因・転移 教科書 pp.109~126)			悪性腫瘍の進展と転移様式についてまとめる。			
12. 代謝異常 I (タンパク質・脂質代謝・糖・ミネラル代謝の異常 教科書 pp.127~135)			脂質代謝異常症などの原因と病態についてまとめる。			
13. 代謝異常 II (タンパク質・脂質代謝・糖・ミネラル代謝の異常 教科書 pp.127~135)			糖代謝異常症の原因と病態についてまとめる。			
14. 老化 (老化に伴う疾患 教科書 pp.137~150)			老化に伴う疾患の病理についてまとめる。			
定期試験 (期末)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)			試験で不正解の領域をもう一度復習する。			

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	□レポート %	■定期試験 40%	□その他 20%
	基準等	毎週、前回の内容について確認テスト(13回)を実施し、理解度を評価する。		全講義の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	笹野公伸 他	シンプル病理学 改訂第8版		南江堂	2020
参考図書					
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	研究棟 5階 第 151 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	FBM09-1R、FBM06-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	発育発達学(含運動発達学)		担当教員 E-Mail	畑中 良太・高橋 泰子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能 及び身体の発達		必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学			選択必修		
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修		
ヘルスプロモーション	基礎医学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	小児、成人、高齢者を対象とする病院・施設で7年以上の理学療法経験がある教員が生涯を通じた発達について講義する					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目です。教育課程における専門基礎科目である。発育発達学は受精卵から始まり人の死までを論じる学問である。身体のみならず認知面も含んでおり、生きる意味や人生における様々な問題まで広く深く考える内容である。リハビリテーション学を学ぶ上での基礎的内容である。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達理論を理解できる。 2. 各ライフステージの特徴について説明できる。 3. 各種発達検査を説明できる。 					
対面授業の 進め方	概要を講義形式にて行い、適宜、実習や演習を交えた体験学習を実施する。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 人間発達の概念(教科書p2～27)			講義内容を復習しノートにまとめる。			
2. 胎児・乳児期・幼児期・学童期(教科書p28～86)			講義内容を復習しノートにまとめる。			
3. 学童期・青年期・成人期・高齢期(教科書p87～151)			講義内容を復習しノートにまとめる。			
4. 姿勢反射・反応、移動運動(教科書p152～181)			講義内容を復習しノートにまとめる。			
5. 視覚・眼球運動、ハンドスキル(教科書p182～200)			講義内容を復習しノートにまとめる。			
6. 聴覚・言語の機能と発達(教科書p201～219)			講義内容を復習しノートにまとめる。			
7. 心理・社会的機能・発達検査(教科書p220～276)			講義内容を復習しノートにまとめる。			
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)			講義内容を復習しノートにまとめる。			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90%		■その他 10%
	基準等			教科書及び配布資料から出題し理解度を評価する。		授業の参加状況の評価する。まとめ学習の成果物。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	福田恵美子 編集	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂6版		中外医学社	2022	
参考図書	浅野大喜	Crosslink basic リハビリテーションテキスト 人間発達学		メジカルビュー社	2021	
履修要件等	無し					
オープンな 教育リソース						
研究室	畑中：研究科棟4階 142研究室 高橋：1号館5階 第17研究室		オフィスアワー	畑中：毎週月曜日 12:10～13:00 高橋：毎週火曜日 12:10～13:00		

科目No.	FBM11-1E、FBM04-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	医学概論		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		選択必修	1単位	前期 (16h)
	作業療法学			必修		
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療				
教員の実務経験と 授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科・麻酔科・救急集中治療部及び急性期総合病院内科・救急科での25年以上の臨床経験のある教員が、医学概論について講義する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>近年療法士はチーム医療の一員としての役割が増大し、他職種との連携がますます重要となっている。このため、専門領域のみならず幅広い医学知識が要求される。本講座では医療人として、チーム医療の一員として必要な医学的知識の習得を目指す。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての倫理観をもって患者対応ができる 2. 医療の現状を理解し、チーム医療を実践できる 3. 本講座で学んだ医学的知識を専門科目の学習や臨床現場で応用することができる 					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。また、社会的に関心の高いテーマを選んで、ディスカッションを行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	対面授業が困難な場合、TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 第1章 生きることと死ぬこと (教科書 pp2~18)				復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
2. 第1章 生きることと死ぬこと (教科書 pp19~41)				復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
3. 第2章 医学と医療 (教科書 pp42~61)				復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
4. 第3章 保健・医療・介護——切れ目ないサポートの実現 (教科書 pp62~103)				復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
5. 第3章 保健・医療・介護——切れ目ないサポートの実現 (教科書 pp103~154)				復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
6. 第4章 医療と社会 (教科書 pp154~189)				復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
7. 第5章 医療経済学と医療政策 (教科書 pp190~212)				復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
8. 試験						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 20%	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	康永 秀生	「医療概論 第2版 健康支援と社会保障制度1」			医学書院	2026
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい					

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50

科目No.	FBM11-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	医学概論		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	基礎医学	必修	1単位	前期 (16h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科・麻酔科・救急集中治療部及び急性期総合病院内科・救急科での25年以上の臨床経験のある教員が、医学概論について講義する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目であり、『健康の改善』を科学することに必要な医学的知識の習得を目指す。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の現状を理解し、ヘルスプロモーションを実践できる 2. 本講座で学んだ医学的知識を専門科目の学習や医療介護現場で応用することができる 					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。また、社会的に関心の高いテーマを選んで、ディスカッションを行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	対面授業が困難な場合、TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 第1章 生きることと死ぬこと (教科書 pp2~18)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 第1章 生きることと死ぬこと (教科書 pp19~41)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 第2章 医学と医療 (教科書 pp42~61)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 第3章 保健・医療・介護——切れ目ないサポートの実現 (教科書 pp62~103)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 第3章 保健・医療・介護——切れ目ないサポートの実現 (教科書 pp103~154)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 第4章 医療と社会 (教科書 pp154~189)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 第5章 医療経済学と医療政策 (教科書 pp190~212)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 試験						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	■レポート 40%	■定期試験 40%	■その他 20%	
	基準等		レポートにて授業内容全般についての理解度を評価する。	定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	康永 秀生	「医療概論 第2版 健康支援と社会保障制度1」		総合医学社	2019	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい					

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50

科目No.	FCM04-1R、FBM11-1R、FCM04-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次	
授業科目名	精神医学		担当教員 E-Mail	堺 景子			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	2単位	後期(30h)	
	作業療法学						
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		選択必修			
	ヘルスプロモーション	臨床医学					
教員の実務経験と授業内容の関連	精神科病院で20年以上の臨床経験のある教員が、講義中に精神疾患患者の症例検討を行い、精神疾患の病態や精神疾患患者が抱える様々な問題を理解できるよう講義を行う。						
授業内容の要約	本講義では、精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過などについての基礎的知識を理解し修得する。精神疾患について正しく理解し、精神疾患を抱える本人や家族への心理的・社会的背景にも配慮しながら、障害に応じた治療計画が立案できるようになる。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各精神疾患の概要を理解し説明することができる。 精神疾患を抱える人々の心理的・社会的問題を理解し、どのような治療やリハビリテーションが必要かを考えることができる。 精神疾患を抱える人々の障害に応じた治療計画を立案できる。 						
対面授業の 進め方	講義形式で行う。毎回講義スライドをプリントとして配布するので、適宜加筆すること。授業時間内に毎回小テストを行う。						
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365のstreamを使用し動画を配信する。動画配信後、課題を配布する。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 精神医学総論Ⅰ(精神科医療の歴史)				授業内容・小テストの復習			
2. 精神医学総論Ⅱ(精神科医療の現状)				授業内容・小テストの復習			
3. 精神医学総論Ⅲ(精神科医療に関連する法律)				授業内容・小テストの復習			
4. 精神医学総論Ⅳ(精神症状と診断分類)				授業内容・小テストの復習			
5. 治療(薬物療法とリハビリテーション)				授業内容・小テストの復習			
6. 疾病Ⅰ(器質性精神障害、症状性精神障害)				授業内容・小テストの復習			
7. 疾病Ⅱ(精神作用物質による精神および行動の障害1)				授業内容・小テストの復習			
8. 疾病Ⅱ(精神作用物質による精神および行動の障害2)				授業内容・小テストの復習			
9. 疾病Ⅲ(統合失調症1)				授業内容・小テストの復習			
10. 疾病Ⅲ(統合失調症2)				授業内容・小テストの復習			
11. 疾病Ⅳ(気分障害)				授業内容・小テストの復習			
12. 疾病Ⅴ(神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害)				授業内容・小テストの復習			
13. 疾病Ⅵ(人格障害、知的障害、発達障害等)				授業内容・小テストの復習			
14. 疾病Ⅶ(摂食障害、睡眠障害等)				授業内容・小テストの復習			
定期試験							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	武田雅俊監修	精神医学マイテキスト 第3版			金芳堂	2026	
参考図書							

履修要件等			
オープンな 教育リソース			
研究室	研究科棟 4階 146 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12 : 30~13 : 30

科目No.	FCM09-1R、FCM09-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次			
授業科目名	臨床心理学		担当教員 E-Mail	堺 景子					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	2単位	後期(30h)			
	作業療法学								
	ヘルスプロモーション	臨床医学		選択必修					
教員の実務経験と 授業内容の関連									
授業内容の要約	臨床心理学の成り立ちや基本概念、代表的な理論を習得する。心理に関する支援を要する人々に対しての代表的な介入方法を習得する。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 臨床心理学の歴史、代表的な理論体系や介入方法を説明することができる。 本講義で学ぶ代表的な基礎理論に基づき、心理に関する支援を要する人々に対して、適切な支援方法を判断することができる。 心理に関する支援を要する人々との信頼関係を構築するにあたり、支援者にはどのような態度や姿勢が求められるのかについて主体的に考えることができる。 								
対面授業の 進め方	講義形式で行う。毎回講義スライドをプリントとして配布するので、適宜加筆すること。授業時間内に毎回小テストを行う。								
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の stream を使用して動画を配信する。動画配信後、課題を配布する。								
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上				
1. 臨床心理学とは				授業内容・小テストの復習					
2. パーソナリティ理論				授業内容・小テストの復習					
3. 発達理論				授業内容・小テストの復習					
4. 学習理論				授業内容・小テストの復習					
5. 心理アセスメント				授業内容・小テストの復習					
6. 心理検査①(質問紙法)				授業内容・小テストの復習					
7. 心理検査②(投影法)				授業内容・小テストの復習					
8. 心理検査③(知能検査、発達検査、神経心理学的検査)				授業内容・小テストの復習					
9. 心理的介入①(精神分析的アプローチ)				授業内容・小テストの復習					
10. 心理的介入②(行動療法/認知行動療法的アプローチ)				授業内容・小テストの復習					
11. 心理的介入③(パーソンセンタードアプローチ)				授業内容・小テストの復習					
12. 心理的介入④(遊戯療法、箱庭療法、芸術療法)				授業内容・小テストの復習					
13. 心理的介入⑤(家族療法、日本固有の心理療法)				授業内容・小テストの復習					
14. 心理臨床活動の実践				授業内容・小テストの復習					
定期試験									
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)									
成績評価方法	項目	■課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験	100%	□その他	%
	基準等					定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。			
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	特に指定しない								
参考図書									

履修要件等			
オープンな 教育リソース			
研究室	研究科棟 4階 146 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12 : 30~13 : 30

科目No.	FCM10-1R, FBM18-1R、FCM10-1E	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	一般臨床医学	担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	2単位	後期(30h)
	作業療法学				
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療	選択必修		
ヘルスプロモーション	臨床医学				
教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科・麻酔科・救急集中治療部及び急性期総合病院内科・救急科で25年以上臨床経験のある教員が、一般臨床医学について講義する				
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>本学カリキュラムで比較的授業時間の多い内科学、精神医学、整形外科のほかに、多くの疾患に精通しておくことは医療人にとって必須である。本講座では救急医学、皮膚科学、産婦人科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、老年医学、基礎薬理学、基礎予防医学などについて、医療人として「これだけは知っておいてほしい」疾患を中心に解説する。</p>				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. PT, OT, STにとって必要な医学知識・基礎的な予防医学を習得できる 2. 学んだ疾患の知識を臨床現場で応用することができる 3. 臨床現場で求められる基本的な薬理学を理解できる 4. 基礎的な救急医学を理解できる 				
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。また、社会的に関心の高いテーマを選んで、ディスカッションを行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。				
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 概論			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
2. 救急医療(教科書 p1~11)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
3. 外科総論(教科書 p13~21)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
4. 脳神経外科総論(教科書 p23~30)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
5. 皮膚疾患①(教科書 p35~55)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
6. 皮膚疾患②(教科書 p35~55)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
7. 泌尿器科疾患①(教科書 p57~73)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
8. 泌尿器科疾患②(教科書 p57~73)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
9. 婦人科・産科疾患①(教科書 p75~92)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
10. 婦人科・産科疾患②(教科書 p75~92)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
11. 眼疾患(教科書 p97~103)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
12. 耳鼻咽喉科疾患①(教科書 p105~116)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
13. 耳鼻咽喉科疾患②(教科書 p105~116)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
14. 老年医学、薬理学基礎(教科書 p119~12)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
定期試験(期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)					

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	椿原彰夫 他	PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版		医歯薬出版社	2014
参考図書	特に指定しない				
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50	

科目No.	FHW01-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教員 E-Mail	金尾顕郎・岸村厚志・塚本能三・中松俊介		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの 理念	必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学				
	言語聴覚学	社会保障・教育とリハビリテ ーション			
ヘルスプロモーション	保健医療福祉				
教員の実務経験と 授業内容の関連	健康科学、リハビリテーションの実務経験のある教員が指導にあたる。				
授業内容の要約	リハビリテーションの歴史と社会的使命、地域や社会におけるリハビリテーションの取り組みなど 包括的な見地からリハビリテーションの考え方を学ぶ。疾病とは何か、障害とは何か、健康とは何か を踏まえ、リハビリテーション領域の専門性とチーム・アプローチの重要性を理解すること。				
学修目標 到達目標	1. リハビリテーションの概念と社会的意義・役割について理解することができる 2. 疾病と障害の構造について理解できる 3. 健康を科学し、各専門職の役割とIPC(多職種連携実践)について理解できる				
対面授業の 進め方	指定テキストをもとに講義形式にて授業を行う。また、適宜参考資料を配布する。				
遠隔授業の 進め方	対面講義のみの予定。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. リハビリテーションとは何か 医療・保健・福祉現場でのリハビリテーションの役割 (教科書 pp108-113) ノーマライゼーションの概念(教科書 pp1-17)、 (金尾)			① リハビリテーションの概念 リハビリテーションにおけるPT・OT・ST・ HPの役割について理解する		
2. 健康と疾病(教科書 pp19-21)、 障害学 国際障害分類、国際生活機能分類(教科書 pp20-26) 専門職とその役割と関係・チーム医療(チームアプローチ) (金尾)			健康とは何か。そして、ICIDHとICFについて 理解し、障害とは何かを考える チームアプローチの基本と多職種連携教育につ いて理解する		
3. リハビリテーション過程(pp67-78)と諸段階(pp79-96) (リハビリテーションの情報工学・患者情報・インフォームドコンセ ント・医療安全システム) (岸村)			Out Put 学習		
4. ADL、QOLの概念、評価法(pp129-138)とアプローチ (プログラム・クリニカルパス・自助具・補装具・義肢装具) (岸村)			Out Put 学習		
5. コミュニケーションとは ・コミュニケーション障害の分類 ・評価とアプローチ(レジュメを配付) (塚本)			脳血管障害により生じるコミュニケーション障 害について理解し、評価、アプローチについて概 観を知る。		
6. 医療・福祉制度とリハビリテーション関係法規・医療制度・ 社会保障制度・リハビリテーション関係法規 (教科書 pp189-224) (塚本)			医療・福祉・リハビリテーションの制度、関係法 規などについて、具体例を交えて理解を深める。		

7. 健康な活動を科学する (教科書 pp171-188) 予防医学とヘルスプロモーション 健康社会を創造するための「運動、栄養、休養」 デジタル時代の well-being (中松)		教科書 (pp171-188) を読んでくる 学修内容をレポート用紙にまとめる			
定期試験 (マークシート試験)					
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説) (金尾)					
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 20%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 60%	<input checked="" type="checkbox"/> 出席・授業態度 20%
	基準等		課題について、レポートの提出及び内容を評価	筆記試験にて理解度を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	田島文博 編著	「医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版」		永井書店	2021
参考図書					
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員	オフィスアワー	

科目No.	FHW04-1R・FHW03-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	社会保障制度		担当教員 E-Mail	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの 理念		必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	社会保障・教育とリハビリテ ーション				
ヘルスプロモーション	保健医療福祉					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>今日の社会保障の理念をはじめ、その現状、法体系、社会保障をめぐる情勢などを概観し、社会保険、公的扶助、社会福祉、医療・公衆衛生の制度の概要および基礎的知識を習得する。また、今日問題となっている事例を取り上げ、実際の社会保障の施策を検証する。</p> <p>社会保障制度を理解することで、社会資源を活用できるようになりコミュニケーションを図る上で、話題を提供することができる。</p> <p>また、社会福祉学において学修した福祉の理念等が制度施策に生かされていることが確認できる。関係法規において学ぶ法規の実際の運用の理解につながる。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の理念が理解できる 2. 日本の社会保障制度を大別でき、それぞれの現状が理解できる 3. 社会保障の各種制度についての法規やしきみ、具体的内容、運用等について説明できる 					
対面授業の 進め方	講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること。					
遠隔授業の 進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、登校日に配付。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 「社会保障」における社会保険			社会保険の役割を整理すること			
2. 「医療」に関わる保障Ⅰ 医療保障における医療保険の役割			医療保険の役割を整理すること			
3. 医療保険制度Ⅰ 日本における医療保険の制度と仕組み			医療保険制度をまとめること			
4. 介護保険制度Ⅰ 介護保険制度の制定			介護保険制度制定までの過程を整理すること			
5. 介護保険制度Ⅱ 介護保険制度の仕組み			介護保険制度をまとめること			
6. 年金保険制度、雇用保険、労災保険			それぞれの社会保険制度をまとめること			
7. 公的扶助 生活保護制度Ⅰ 生活保護制度の理解			生活保護制度の運用について整理すること			
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
定期試験 (期末レポート)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90%	■その他 10%	
	基準等			全般に渡る範囲から理解度をはかる。	個々に作成した要点を整理したプリントの評価	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	各項目に応じてレジュメを配布する					
参考図書	講義内で適宜紹介する					
履修要件等	社会福祉学 を合わせて受講されていることが望ましい					

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館4階第1研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00

科目No.	SBP01-1R、SRE01-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	理学療法学概論（含演習）		担当教員 E-Mail	金尾顕郎、本田憲胤、前田和成、相川和久		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	基礎理学療法学	必修	1単位	前期(30h)	
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	大学病院にて30年間急性期の医療に携わり、医療系大学で理学療法士育成を20年間行ってきた。その間、医療施設・介護施設において急性期・回復期・生活期の理学療法に携わってきた経験を基に指導にあたる。					
授業内容の要約	理学療法の概念や歴史の他、対象や方法、役割、活動内容などを理解するとともに、理学療法士に関係する法律や倫理などについても学び、社会に貢献する理学療法士の基礎力を養成するとともに、リハビリテーション・マインドや理学療法士の現実を感じられる機会をもうけ、今後4年間学修していく基盤固めを目指す。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の概略を理解し、これから履修する科目の必要性を理解できる。 2. 理学療法とリハビリテーションの違いを理解し、リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解する。 3. 理学療法士を目指すことへの覚悟を決め、学修への動機づけを高める。 					
対面授業の 進め方	講義の前半は、講義形式にて進行。後半は、実例を入れながら課題をグループでディスカッションし、実技も入れて進めていく。また、トピックスも紹介する。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の Teams を使用し、双方向の授業を行う。授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせで行う場合もある。Teams での会議に「顔出し」で参加。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション・理学療法とは（テキスト p1-24）						
2. 理学療法士に求められるもの（テキスト p25-50）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			
3. 障害学・患者学 評価（ICIDH・ICF）（テキスト p159-172）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			
4. 理学療法士の活動領域（テキスト p73-96）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			
5. 理学療法の安全管理（テキスト p97-116）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			
6. 臨床実習（テキスト p117-130）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			
7. 検査・測定・ADL（テキスト p131-158）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			
8. 運動療法（テキスト p173-186）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			
9. 物理療法（テキスト p187-198）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			
10. 運動器障害系・神経系・内部障害理学療法 ① （テキスト p219-284）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			
11. 運動器障害系・神経系・内部障害理学療法 ② （テキスト p219-284）			予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り			

12. 急性期病院での理学療法		外部講師による授業 復習：講義内容の振り返り			
13. 回復期病院での理学療法		外部講師による授業 復習：講義内容の振り返り			
14. 在宅での理学療法		外部講師による授業 復習：講義内容の振り返り			
定期試験（期末試験）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 15%	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 15%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（期末） 60%	<input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 10%
	基準等	毎回授業終了後、その日に学んだことを既定の用紙に記入し提出すること。	レポートの提出及び内容を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	石川 朗 監修	"理学療法概論 15 レクチャー理学療法テキスト"		中山書店	2017
参考図書	上杉 雅之 監修	PT 入門 イラストでわかる理学療法概論		医歯薬出版株式会社	2024
	高橋 哲也等 編著	理学療法概論		医歯薬出版株式会社	2024
履修要件等	本科目で理学療法を概観し、理学療法及び理学療法士像を明確にすることが、これから学修していく科目の意義を理解し、学修への動機づけとなることを念頭に置いて取り組んでもらいたい。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館1階 学部長室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:00～13:00	

科目No.	SBP02-1R、SRE18-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	基礎運動学		担当教員 E-Mail	岡 健司・佐伯 純弥		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	基礎理学療法学	必修	1単位	前期(16h)	
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床経験のある教員がその経験を活かし、ヒトの身体運動について解説を行う					
授業内容の要約	人間の身体運動のしくみを理解する運動学は、基礎理学療法学における柱の一つである。本科目では、姿勢や動作を生み出す関節運動に焦点を当て、関節の構造と機能の関係について学ぶ。					
学修目標 到達目標	関節運動を成立させる骨・関節構造、筋・腱・靭帯などの軟部組織、およびそれらの間の力学的相互作用について説明できるようにする。					
対面授業の 進め方	講義と演習を組み合わせ、演習ではディスカッションを活用したアクティブラーニングを取り入れる。					
遠隔授業の 進め方	Teamsでのオンタイム授業またはStreamでの授業動画配信で、講義を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 関節の基本構造(関節の種類、基本構造)			予習・復習			
2. 関節運動の原理(関節運動・関節包内運動、凹凸の法則)			予習・復習			
3. 力のモーメント・トルクと関節運動			予習・復習			
4. 関節の安定性と可動性(靭帯、関節包、自動運動と他動運動)			予習・復習			
5. 開放運動連鎖(OKC)と閉鎖運動連鎖(CKC)			予習・復習			
6. 筋と関節運動(単関節筋、二関節筋、筋収縮)			予習・復習			
7. 関節運動の分析			これまでの予習・復習			
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)			講義の総括			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内の小テスト		授業内容の理解度を筆記試験で評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	小島悟：責任編集	運動学 第2版(15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト)		中山書店	2024	
参考図書	ヒントレ研究所	PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 改訂第3版		南江堂	2024	
	山崎敦：著	運動学 第2版(PT・OT ビジュアルテキスト 専門基礎)		羊土社	2022	
	Neumann：原著	筋骨格系のキネシオロジー原著第3版		医歯薬出版	2018	
履修要件等	「運動学」を履修済みであることが望ましい。					

オープンな 教育リソース			
研究室	岡：1号館4階 第2研究室 佐伯：1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 10：40～11：40 毎週月曜日 12：10～13：00

科目No	SBP03-1R、SRE19-1E		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	基礎運動学実習		担当教員 E-Mail	岡 健司・佐伯 純弥		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1 単位	後期 (30h)
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学		選択必修		
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床経験をもつ教員が、障害構造を知るうえでの基礎となる身体運動について講義と実習を通して解説する。					
授業内容の要約	運動学は、基礎理学療法学の重要な分野であり、人間の身体運動のしくみを理解するために不可欠である。本科目では、関節運動学を中心に、上肢・下肢・体幹の運動機能について学び、運動学習や筋活動、歩行といったテーマを含めて運動の計測・解析方法を理解する。授業では講義に加え、実習を通して知識を定着させる。実習では、筋電図、重心動揺計などの計測機器を活用し、理学療法における運動機能評価の基礎を習得する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節運動学を中心に、身体運動を成立させる解剖学的構造と力学的背景を理解する。 2. 筋活動や歩行の運動学的特徴を把握し、超音波診断装置・筋電図・重心動揺計などの計測機器を活用した運動機能評価の基礎を身につける。 					
対面授業の 進め方	講義と実習を融合させ、体験学習やディスカッションを通じて、アクティブラーニングを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft Teams を使用し、オンライン形式で実施する。講義ではスライドを用いて解説し、実習は動画や演習課題を活用して理解を深める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			60分以上
1. 関節運動			<ul style="list-style-type: none"> ● 予習・復習：関節構造 (『運動学』2 運動器の構造と機能) 			
2. 肩の運動学			<ul style="list-style-type: none"> ● 予習：上肢の解剖学 ● 予習・復習：肩関節の運動学 (『運動学』3 肩関節複合体の運動学) 			
3. 肘と前腕の運動学			<ul style="list-style-type: none"> ● 予習：肘・前腕の解剖学 ● 予習・復習：肘・前腕の運動学 (『運動学』4 肘関節・前腕の運動学) 			
4. 手と手指の運動学			<ul style="list-style-type: none"> ● 予習：手・手指の解剖学 ● 予習・復習：手・手指の運動学 (『運動学』5 手関節・手指の運動学) 			
5. 股関節の運動学			<ul style="list-style-type: none"> ● 予習：骨盤・股関節の解剖学 ● 予習・復習：股関節の運動学 (『運動学』6 股関節の運動学) 			
6. 膝関節の運動学			<ul style="list-style-type: none"> ● 予習：膝の解剖学 ● 予習・復習：膝関節の運動学 (『運動学』7 膝関節の運動学) 			
7. 足関節と足部の運動学			<ul style="list-style-type: none"> ● 予習：足の解剖学 ● 予習・復習：足関節と足部の運動学 (『運動学』8 足関節・足部の運動学) 			
8. 脊柱・体幹の運動学			<ul style="list-style-type: none"> ● 予習：体幹の解剖学 ● 予習・復習：脊柱と体幹の運動学 (『運動学』9 脊柱・体幹の運動学 (1)・10 脊柱・体幹の運動学 (2)) 			
9. 運動学習			<ul style="list-style-type: none"> ● 予習・復習：運動学習 (『運動学』15 運動学習) 			

10. 筋の活動・機能 (1): 筋エコー (超音波診断装置)		● 予習・復習: 筋の構造と機能 (『運動学』2 運動器の構造と機能)			
11. 筋の活動・機能 (2): 筋電図 (EMG)		● 予習・復習: 筋の構造と機能 (『運動学』2 運動器の構造と機能)			
12. 姿勢とバランス: 重心動揺計 (平衡機能計)		予習・復習: 姿勢 (『運動学』12 姿勢)			
13. 歩行 (1) 基本的なツールによる計測		予習・復習: 歩行 (『運動学』13 歩行 (1))			
14. 歩行 (2) 特殊な機器による計測・解析		予習・復習: 歩行 (『運動学』14 歩行 (2))			
15. 総括及びフィードバック		総復習			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30 %	□レポート %	■ 定期試験 70 %	□その他 %
	基準等	授業内の小テストおよび課題		授業内容の理解度を筆記試験で評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	小島悟: 責任編集	運動学 第2版 (15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト)		中山書店	2024
	ヒントレ研究所	PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 改訂第3版		南江堂	2024
参考図書	山崎敦: 著	運動学 第2版 (PT・OT ビジュアルテキスト 専門基礎)		羊土社	2022
	Neumann: 原著	筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版		医歯薬出版	2018
履修要件等	「運動学」・「基礎運動学」を履修済みであることが望ましい。				
オープンな教育リソース					
研究室	岡: 1号館4階 第2研究室 佐伯: 1号館5階 第3共同研究室		オフィスアワー	岡: 毎週火曜日 10:40~11:40 佐伯: 毎週月曜日 12:10~13:00	

科目No	SPE01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	理学療法評価学概論		担当教員 E-Mail	村西 壽祥		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員(理学療法士)が、その経験を生かして、症例に対する理学療法の進め方を講義する。加えて理学療法に必須の計測実技に関する基本的な知識と手法を演習形式で学ぶ。					
授業内容の要約	理学療法評価とは、理学療法士が対象者の能力や実行状況、病態、回復の程度などを評価する作業といわれている。本講義では、評価の手順や方法、種類について学修する。また、問診、バイタルサインや身体計測などを演習形式で学び、2年次以降に開講される神経系検査法や基本的検査法の講義に備える。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法評価のプロセスについて理解し、説明できる。 2. 理学療法評価の種類について把握できる。 3. 医療面接、バイタルサイン、形態計測の方法・手順・注意事項を理解し、健常者に対して正確に測定を実施できる。 					
対面授業の 進め方	授業は、講義と演習を実施する。講義はPBL形式や種々の課題をグループディスカッション等を含め、アクティブラーニングを活性化させる。演習では担当教員が学修する検査等のデモンストレーションを行い、デモンストレーション内容を学生が模倣し、少人数でのグループワークでスキルを身につけられるよう教員が適宜アドバイスを行いながら演習を進める。 なお演習は実技の練習が含まれるため、服装の指定がある(短パン・半袖シャツ)。					
遠隔授業の 進め方	繰り返し学修できるよう、office365 teams、streamを用いて講義・デモンストレーションを録画する。出席は、講義時間中に取り組む課題(小テスト)の提出の有無により確認する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 理学療法評価の基礎(1) 評価の過程				評価の過程に関する復習		
2. 理学療法評価の基礎(2) ICIDH と ICF				ICIDH と ICF に関する復習		
3. 理学療法評価の進め方				理学療法評価の進め方に関する復習		
4. 医療面接と情報収集				医療面接技法と情報収集項目に関する復習		
5. 演習：医療面接と情報収集の実際				医療面接に関する演習の復習		
6. 意識障害・全身状態の評価				意識障害・全身状態の評価に関する復習		
7. 演習：バイタルサインの評価				バイタルサインの演習に関する復習		
8. 脳機能の評価				脳機能の評価に関する復習		
9. 姿勢評価・形態測定				姿勢評価・形態測定に関する復習		
10. 演習：姿勢評価				姿勢評価に関する演習の復習		
11. 演習：形態測定				形態測定に関する演習の復習		
12. 感覚の評価・反射検査				感覚の評価・反射検査に関する復習		
13. 関節可動域・筋力の評価				関節可動域・筋力テストに関する評価		
14. 日常生活活動の評価				日常生活活動評価に関する復習		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	■レポート 20%	□定期試験 60%	■その他 %
	基準等	演習の習熟度を評価するための課題を課す。	レポートを課す。レポートの提出状況と内容を評価する。		前回の授業内容について、小テストを実施する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	潮見泰藏 他	「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版」		羊土社	2019
参考図書	内山靖 岩井信彦	「標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版」		医学書院	2023
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第21研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00	

科目No.	SPT04-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	運動療法学総論		担当教員 E-Mail	峰久 京子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	2単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で理学療法士として23年の臨床経験がある教員がその経験を活かして、運動療法の基本的な知識、理論、方法について指導する。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、理学療法実践の中心となる運動療法の基本的な知識、理論、方法を学習し、「運動療法学実習」や障害別理学療法の基礎を構築する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各運動療法の対象となる障害を想起できる 各種運動療法の概論について説明できる 各運動療法の理論・方法について説明できる 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を中心とした講義形式で行い、理解の程度を確認するために中間試験を実施する。 本講義の受講に先立ち、解剖、運動、生理学の理解を深めておくことが望ましい 事前に教科書を読み、疑問を持って授業に取り組むこと。アクティブラーニングを推進するためワークブックとして使用できるレジュメを配布する。受講しながら課題を完成させ、さらに復習としてノート整理を行ってください。作成されたノートは評価対象であり、フィードバックします。 					
遠隔授業の 進め方	Microsoftoffice365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う。 遠隔授業時の出席確認は、teamsに紐づけられたClass Notebookに授業のまとめを作成することと、確認テストの提出をもって行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. 総論. 運動療法の定義と分類、適応と禁忌① (教科書 p2～p15)			予習：教科書 p1～15 を読む 復習：運動・運動療法の定義と分類、適応と禁忌、手順についてまとめる。			
2. 総論. 運動療法の定義と分類、適応と禁忌② (教科書 p2～p15)			予習：教科書 p1～15 を読む 復習：運動・運動療法の定義と分類、適応と禁忌、手順についてまとめる。			
3. 運動における筋の機能 (教科書 p 18～37)			予習：教科書 p18～37 を読む 復習：筋の機能、収縮様式、筋の役割、筋力増強についてまとめる。			
4. 筋力・筋持久力低下に対する運動療法 (教科書 p 38～48)			予習：教科書 p38～48 を読む 復習：筋力・筋持久力低下に対する運動療法についてまとめる。			
5. 運動における関節可動性 (教科書 p 52～65)			予習：教科書 p52～64 を読む 復習：関節の構造と可動性、副運動とストレッチング・拘縮の運動療法についてまとめる。			
6. 関節可動性障害に対する運動療法 (教科書 p 66～77)			予習：教科書 p66～77 を読む 復習：評価と臨床推論、可動性障害の運動療法・ROM運動についてまとめる。			
7. 1～6までの確認試験 (中間試験) 姿勢・動作におけるバランス機能 (教科書 p 80～92)			予習：教科書 p80～92 を読む 復習：姿勢・動作とバランス、バランスの機能の低下と改善についてまとめる。			
8. 中間試験のフィードバック 姿勢・動作におけるバランス機能 (教科書 p 80～92)			予習：教科書 p80～92 を読む 復習：姿勢・動作とバランス、バランスの機能の低下と改善についてまとめる。			

9. バランス機能に対する運動療法 (教科書 p94～113)		予習：教科書 p94～113 を読む 復習：バランス機能と姿勢制御、バランス機能障害の評価と運動療法についてまとめる。			
10. 協調性機能と運動療法 (教科書 p216～p240)		予習：教科書 p216～240 を読む 復習：フィードバックとフィードフォワード制御、協調性障害の運動療法についてまとめる。			
11. 加齢による運動機能変化と運動療法 (教科書 p350～p373)		予習：教科書 p350～373 を読む 復習：加齢に伴う心身機能の変化とその評価、運動療法についてまとめる。			
12. 基本動作と運動療法 (教科書 p376～p421)		予習：教科書 p376～421 を読む 復習：基本動作能力・歩行能力再獲得のための評価と運動療法についてまとめる。			
13. 運動学習と運動療法 (教科書 p424～p437)		予習：教科書 p424～437 を読む 復習：運動学習の定義と代表的理論、運動学習を用いた運動療法についてまとめる。			
14. 全身調整訓練(コンディショニング)		予習：廃用症候群について調べる 復習：廃用症候群、コンディショニングをはかる手段についてまとめる。			
定期試験					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 10 %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 80 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 10 %
	基準等	授業内に中間試験を実施し、授業内容についての理解度を評価する		定期試験 (全範囲) で講義全般の理解度を評価する	学習をすすめるノート (授業内で配布するレジメを含んでよい) を評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	対馬栄輝	「Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学」		メジカルビュー社	2020
参考図書	特に指定しない				
履修要件等	「理学療法概論」が履修済みであることが望ましい。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第7研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～12:50		

科目No.	SCP01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床実習指導 I (PT)		担当教員 E-Mail	村西壽祥 佐伯純弥 中村美砂		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場において豊富な実務経験のある専任教員が指導し、医療職として臨床見学実習の心構えを伝える。					
授業内容の要約	専門教育を受ける前の段階で、保健、医療、福祉分野における実際の理学療法がどのように展開されているのか、病院や施設において見学・体験し、理学療法士の役割の理解を深めるのが臨床見学実習である。実習に参加するにあたり、注意事項を遵守し、臨地実習指導者のもとで患者や各種専門職の方々とのコミュニケーションをはかり、対象者との意志疎通の仕方、基本的態度を身につける視点を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床見学実習の全体像を把握し、意義・目的を理解する 2. 臨床見学実習に参加するための心構え・態度を身につける 3. 臨床見学実習に参加するために必要な基礎知識（解剖学・生理学・運動学）を補う。 					
授業形態 授業の進め方	講義・演習を主とする。演習はグループワーク形式のアクティブラーニングとし、適宜プレゼンテーションを行う。「知識の復習」では、毎回テストを行い、翌週に問題の解説レポートの提出が必須である。本科目は、臨床見学実習に参加するための重要不可欠な科目であることを理解しておくこと。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. オリエンテーション				就職や国家試験に関する自己学習		
2. 臨床実習・国家試験に必要な知識の確認（解剖学・運動学・生理学）①				講義の復習に取り組む		
3. 臨床実習・国家試験に必要な知識の確認（解剖学・運動学・生理学）②				講義の復習に取り組む		
4. 臨床実習・国家試験に必要な知識の確認（解剖学・運動学・生理学）③				講義の復習に取り組む		
5. 臨床実習・国家試験対策 総合確認テスト				講義の復習に取り組む		
6. 臨床見学実習の説明①（実習の手引配布、臨床見学実習とは、実習までのスケジュール確認、学生紹介書・実習前報告の記載方法）				学生紹介書、実習前報告作成		
7. 臨床見学実習の説明②（実習配置発表、教員挨拶と学生紹介書・実習前報告チェックのルール、メールでのアポイントの取り方）				担当教員への挨拶、学生紹介書・実習前報告について担当教員から指導を受ける		
8. 臨床見学実習の説明③（臨床見学実習の注意事項1、実習施設調査レポート）				実習施設調査レポート作成		
9. 臨床見学実習の説明④（臨床見学実習の注意事項2、学生紹介書・実習前報告回収と修正指示、実習施設調査レポート回収）				学生紹介書・実習前報告の修正		
10. 後期試験オリエンテーション、追再試験、その他について				後期試験受験に関する手続きの確認		
11. 臨床見学実習の説明⑥（感染対策、ICFについて、実習前知識確認テストについて）				感染対策、ICFに関する復習 実習前知識確認テストの準備		
12. 臨床見学実習の説明⑦（実習前知識確認テスト、デイリーノート、レジюме、感想レポートの説明、服装チェックの説明）				実習施設へ持参する資料の確認		
13. 臨床見学実習の説明⑧（実習施設への挨拶電話のかけ方、服装チェック）				挨拶電話の日時確認 健康管理シートの記載		
14. 臨床見学実習の説明⑨（臨床実習経験一覧・成果記録について、実習後セミナーについて、最終の持ち物確認）				臨床見学実習、実習報告会の準備		
15. 臨床見学実習報告会、御礼状の記載方法、実習ポートフォリオについて				礼状作成、実習ポートフォリオ作成		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト 20%	□レポート 60%		□その他 20%
	基準等	実習に必要な解剖学・運動学などの復習課題, テスト結果を含める	実習に必要な書類を含むレポートの提出状況や内容を吟味する		出席状況や授業態度を総合的に吟味する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		「臨床実習の手引き第7版」			
		「臨床実習の手引き 理学療法学専攻 2026年度版」			
	山口 美和	PT・OT・STのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド		医学書院	2024
参考図書	適宜配布				
履修要件等	「臨床ゼミⅠ」の単位取得が前提				
オープンな教育リソース	【活用方法】 臨床見学実習までの事前学習 【臨床実習の手引き】 PDFデータをHPにて掲載				
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

科目No.	SCP04-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床見学実習		担当教員 E-Mail	金尾頭郎 村西壽祥 佐伯純弥		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(45h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場において豊富な実務経験のある専任教員と実習指導者が実習指導にあたる。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目である。</p> <p>臨床現場の見学・体験を通して、病院・施設における理学療法の役割や業務について理解する。対象者の生活機能を認識する。</p> <p>対象者や各種専門職の方々とのコミュニケーションをはかり、意志疎通の仕方や信頼される行動・態度について学ぶ。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションや理学療法の見識、社会における理学療法の必要性や役割・専門性について理解する。 2. 臨床実習指導者の指導を受け、対象者の生活機能を、国際生活機能分類に準じてまとめる。まとめた内容を他者に説明できる。 3. 学内で学んだ一部の理学療法検査・測定等を通して、積極的に対象児・者との関わりを持てるようになる。 					
対面授業の 進め方	1週間にわたり病院・施設で見学実習を行う実地体験学習とする。実習後セミナーでは、実習報告会として実習成果を発表し、グループディスカッションによるアクティブラーニングを行う。他者との関わり合いを積極的に持ち、自ら学ぶ姿勢で実習に取り組むこと。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分程度	
1週にわたり病院・施設で見学実習を行う。実習前には実習に必要な態度・知識・技術を習得しているかどうかについて確認する。実習後にセミナーにて課題発表会を行う。				<p>実習の手引きをよく確認する。</p> <p>毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。</p> <p>実習報告会用のレジメをA3用紙1枚にまとめる。不十分な基礎知識を自己学習する。</p>		
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 30%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 70%	
	基準等	実習前に学修した知識を確認するためのテストを行う。		実習成績と実習後セミナー、セミナー後の課題達成度を総合して判定する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	「臨床実習の手引き 第7版」					
	「臨床実習の手引き 理学療法学専攻 2026年度版」					
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	<ol style="list-style-type: none"> ① 実習要件1) を満たしていること ② 該当年度の臨床実習指導における到達度評価（臨床実習準備・実習前評価）が合格水準に達すること 					
オープンな 教育リソース						
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SBO01-1R、SRE02-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	作業療法学概論(含演習)		担当教員 E-Mail	岸村 厚志・中越 雄也		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	作業療法学	基礎作業療法学	必修	1単位	前期(30h)	
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	回復期(回復期リハビリテーション病棟)、生活期(療養病棟・訪問リハビリテーション・デイケア・デイサービス)の臨床現場の実務経験を基に、作業療法とは、どのような対象者に何を、何のために、どのような手段で行い、何を成果とする介入を行うのかを教授する。介護認定審査会委員・障がい支援区分認定審査会委員・大阪府作業療法士会理事・事務局長などの実務経験を基に作業療法士という専門職の社会的役割とは何か、そして他の医療職や市・府の職員又は一般企業や府民との関わり方や態度についての講義を行う。					
授業内容の要約	作業療法と作業療法士を取り巻く状況と歴史や法制度を概括しつつ、作業療法の基本的概念とその対象、作業療法の流れやアプローチの概要について学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 早期より作業療法への理解に強い動機付けをもち学修習慣を身につける 2. 作業療法とは何か説明できる 3. 作業療法士の社会的役割を説明できる 4. 作業療法の関連法規の大枠と定義を説明できる 5. 作業療法の対象と障害を説明できる 6. 作業療法の流れとアプローチを説明できる 7. 各障害領域別作業療法を説明できる 8. 専門職とは何かが説明できる 					
対面授業の 進め方	初年次の早期より積極的に作業療法の理解に取り組んでいけるように、各学修課題の事前学習・当日の授業への積極的な参加、課題レポート作成等に力を尽くしてもらいたい。アウトプットも時間として、ディスカッションの機会も多く取り入れる。日頃よりクラス仲間との交流を図り相互信頼関係を深めていただきたい。授業全般を通して学生の能動的な授業への参加と取り組みを期待します。					
遠隔授業の 進め方	teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション・目標の共有・勉強の仕方(講義)(教科書: 教と略す pp3~10)			予習: 日本作業療法士協会ホームページ 復習: 講義内容の振り返り			
2. 作業療法を学ぶ前に(講師: 奥田裕美先生)(講義)			復習: 講義内容の振り返り			
3. 「作業」とは(教 pp11~26)			予習: 知らない言葉を調べておく 復習: 講義内容の振り返り			
4. 「作業療法」とは(教 pp29~42)			予習: 興味があるところにマークしておく 復習: 講義内容に振り返り			
5. 作業療法の歴史(教 pp45~55)			予習: 興味があるところにマークしておく 復習: ディスカッションをまとめる。			
6. 世界の作業療法(教 pp57~66)			予習: 知らない言葉を調べておく 復習: 講義内容の振り返り			
7. 作業療法の対象と領域(教 pp71~80)			予習: 知らない言葉を調べておく 復習: 作業療法の過程の流れを理解する。			

8. 作業療法の実践過程 (教 pp81~101)		予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り			
9. 作業療法の理論と技術① (教 pp103~115) 【中越先生】		予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り			
10. 作業療法の理論と技術② (教 pp103~115) 【中越先生】		予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り			
11. 作業療法の研究、エビデンス (教 pp119~129)		予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り			
12. 作業療法の教育、関連法規と職能団体 (教 pp133~166)		予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り			
13. 各領域の作業療法 (教 pp171~257)		予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り			
14. 自立生活センター (いこらー、リアライズ、ムーブメント等) 実習		事前課題：「自立生活センターとは」レポート。 事後課題：体験した流れ、気づいたこと、学んだこと、感想の項目を含むレポート。			
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)		講義全体から理解不十分な項目や課題、内容を検証し、ノートに整理しまとめておくこと			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 30%	□レポート 5%	■定期試験 45%	□その他 20%
	基準等	第3~13回の間で実施あされる小テストを100点満点換算しその3割を成績に反映	奥田先生の講義に対するレポート (学んだこと、感想)	講義の翌週に実施した小テスト、外部講師、実習含む全範囲から出題	自立生活センター実習 事前課題 10% 事後課題 10% *実習の参加及び課題の提出は、必修とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	東登志夫 監修・編集	シンプル作業療法学シリーズ 「作業療法学概論テキスト」		南江堂	2023
参考図書	能登真一 編集	「標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第4版」		医学書院	2021
	長崎重信 監修 里村恵子 編集	「作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 作業療法学概論 第3版」		メジカルビュー社	2021
	杉原素子	「作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論」		協同医書	2010
履修要件等	自身の作業のルーティンとバランスを考え、作業療法士やヘルス関連の専門職をめざす学生として最適な1日・1週間・1ヶ月・1年そして4年間の過ごし方を身につけましょう！				
オープンな教育リソース					
研究室	岸村:1号館1階作業療法学専攻長室 中越:1号館5階第2共同研究室	オフィスアワー	岸村:毎週火曜日 12:10~13:00 中越:毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SBO02-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	作業療法運動学		担当教員 E-Mail	中越 雄也		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	後期 (16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	身体障害領域における急性期、回復期、維持期、地域での作業療法への経験がある教員が、12年の実務経験を生かし、生体力学モデルを活用した作業療法の知識と方法について講義する。					
授業内容の要約	基本動作の観察評価を習熟し、生体力学モデルを用いた解釈を学習する。学習はグループで行い、学生間で観察の練習、実技を行い、ディスカッションを通して Active learning を図る。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常運動を自身の身体で動きを確認しながら、言語化できるようになる。 2. 基本動作の観察結果を、記述できるようになる。 3. 生体力学モデルを用いて観察結果を解釈し、作業療法へ活用を考えることができる。 					
対面授業の 進め方	動画や写真、自身の身体を用いて、正常な動きと異常な動きの違いを理解していく。学生間で、動く側と観察する側に分かれて、実技と練習を行っていく。生体力学モデルを用いた解釈と作業療法への活用方法を学生同士のグループワークで学ぶ。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。第1回～7回は遠隔で授業を行い、第8回はセクションのまとめとして対面授業を行う。遠隔授業時の出席確認は、授業中に配信する課題の提出をもって行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 生体力学モデルを用いた作業療法について			復習：生体力学モデルについて理解する			
2. 関節運動と姿勢分析について			復習：各関節の運動について予習する			
3. バランス評価について			復習：バランス評価について理解する			
4. 起立・着座の動作分析			復習：起立・着座の動作分析について理解する			
5. 寝返り・起き上がりの動作分析			復習：起き上がりの動作分析について理解する			
6. 移動（歩行・車いす駆動）の動作分析			復習：移動の動作分析について理解する			
7. 観察結果の生体力学モデルを用いた解釈と作業療法への活用			復習：生体力学モデルを用いた解釈について理解する			
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 95%	■その他 5%	
	基準等			定期試験は筆記試験で実施する。	授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	細田多穂（監修）	基礎運動学 テキスト		南江堂	2025	
	小川真寛、 白井はる奈（編著）	最新作業療法学講座 日常生活活動（ADL）		医歯薬出版	2025	
参考図書	石井真一郎（編著）	動作分析 臨床活用講座		メディカルビュー社	2013	
	Donald A. Neumann 原著	筋骨格系のキネシオロジー第3版		医歯薬出版	2018	
履修要件等	なし					

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00

科目No.	SBO03-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	作業科学(含演習)		担当教員 E-Mail	中越 雄也		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1 単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	日本作業科学研究会に 18 年所属し、作業に焦点をあてた作業療法の実務経験が 12 年間ある教員が、その経験を活かして、作業療法の核となる概念である作業についての考え方を講義する。					
授業内容の要約	作業について探求する作業科学の知識を講義で伝えるとともに、受講生は作業に焦点をあてた作業療法（作業に焦点をあてた教育プログラム）を体験し、自分の作業を通して学修していく。					
学修目標 到達目標	1. 作業の定義や、作業の意味・形態・機能を説明することができる 2. 自分自身の作業をより良くするための方法を考えることができる 3. 自分の人生に影響を与えている作業を時系列に説明することができる					
対面授業の 進め方	授業時間内にミニツッパーパーで感想や質問などを解答し、教員と交流をしながら授業を進めていく。また、グループディスカッションを通じて、様々な人の作業を知ること、自分の作業の理解を深めていく。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業の出席確認は授業中に配信する課題の提出をもって行うこととする。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 作業科学における作業、作業を学ぶ必要性について				教科書：第 1 章 作業科学の誕生の pp1～7 までを予習しておく。		
2. 作業の意味・形態・機能について ①				教科書 pp12～42 および配布資料を、予習、復習しておく。		
3. 作業の意味・形態・機能について ②						
4. 作業に焦点をあてた教育プログラム ①				「自分の作業を充実させる方法について」のレポートを作成し、締切までに提出する。		
5. 作業に焦点をあてた教育プログラム ②						
6. 作業に焦点をあてた教育プログラム ③						
7. 作業的存在と作業権、作業的公正・不公正 ①						
8. 作業的存在と作業権、作業的公正・不公正 ②				教科書「個人の作業：人生のなかの作業」pp50～53 および配布資料を、予習、復習しておく。		
9. 作業的ストーリーテリングと作業的ストーリーメイキング ①						
10. 作業的ストーリーテリングと作業的ストーリーメイキング ②				「私の作業的ストーリーについて」のレポートを作成し、締切までに提出する。 配布資料や、教科書：第 4 章 pp71～99 を予習・復習する。		
11. 作業遂行 人—環境—作業モデルについて ①						
12. 作業遂行 人—環境—作業モデルについて ②						
13. 作業科学と作業療法について ①						
14. 作業科学と作業療法について ②				配布資料や、教科書：第 4 章 pp71～99 を予習・復習する。		
15. 総括及びフィードバック（レポートの解説）						
成績評価方法	項目	■課題 45%	■レポート 50%	□定期試験 %	■その他 5%	
	基準等	授業時間内におけるミニツッパーパーの提出頻度および、取り組み状況で採点する。	「自分の作業を充実させる方法について」と、「私の作業的ストーリーについて」の 2 つのレポートで採点する。		ディスカッションなど授業への積極的な参加状況から総合的に採点する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	吉川ひろみ	「作業」って何だろう 作業科学入門 第 2 版		医歯薬出版	2017	
参考図書	吉川ひろみ 他	作業療法の話をしよう		医学書院	2019	
	葉山靖明	だから、作業療法が大好きです！		三輪書店	2012	
履修要件等	なし					

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00

科目No.	SBO04-1R、SRE23-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	基礎作業分析学(含演習)		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・白岩 圭悟		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	作業療法学	基礎作業療法学	必修	1単位	後期(30h)	
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床経験20年以上のある教員がその経験を活かして基礎作業分析の知識と技法を講義し、対象者への対応について指導する。					
授業内容の要約	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法で用いる代表的な作業種目について、その工程や手段を学び、具体的に説明できる。実習の中で、作業に必要とされる道具・材料について学び、作業分析を通して作業の持つ特性や人のからだに与える影響を考察する。また、集団・場の治療的意義も考察し、集まり、集めることの利用について学修する。 生活行為向上マネジメントの概説をするとともに、インテークに関し学修する。 					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 具体的に作業活動の工程・手順を実習することで、種目ごとに作業の特徴を説明できる。 道具・材料・工程について理解し、分析することで、作業が人に与える影響を説明できる。 作業活動における集団・場の利用について説明できる。 生活行為向上マネジメントの概説とインテークについて理解し説明できる。 					
対面授業の 進め方	前半は講義後に作業活動実習と分析、グループ討論を行う。後半は講義と学生同士がペアになって、お互いにインテークに関して実践していく。「楽しく真剣に」取り組むこと。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 作業分析とは 講義・演習(紙細工)			復習: 作業分析について			
2. 作業分析の実際 講義・演習(塗り絵①)			復習: 塗り絵の特徴について			
3. 塗り絵② 臨床現場での活用と分析			塗り絵のレポート作成			
4. 陶芸① 玉づくりと分析			陶芸の道具・材料・工程・手順の復習			
5. 陶芸② たたらづくり、紐づくりと分析			陶芸のレポート作成			
6. 革細工① スタンピング技法と分析			革細工の道具・材料・工程・手順の復習			
7. 革細工② カービング技法と分析			革細工のレポート作成			
8. コラージュ コラージュ作成と分析			コラージュの道具・材料・工程・手順の復習/レポート作成			
9. アイロンビーズ アイロンビーズ作成と分析			アイロンビーズの道具・材料・工程・手順の復習/レポート作成			
10. 編み物① かぎ針編みと分析			かぎ針編みの道具・材料・工程・手順の復習			
11. 編み物② 棒針編みと分析			棒針編みの道具・材料・工程・手順の復習/編み物のレポート作成			
12. ネット手芸 ネット手芸作成と分析			ネット手芸の道具・材料・工程・手順の復習/レポート作成			
13. 陶芸③ 釉薬がけと分析			陶芸のレポート作成			
14. MTDLP 概要・演習 生活行為の目標とは			復習: MTDLPについて			
定期試験(期末レポート)						
15. MTDLP 事前情報の聞き取り、対象者の大切にしている生活行為の聞き取り演習			生活行為の聞き取りの実践復習、生活行為の聞き取りのレポート作成			

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 80 %	□定期試験 %	■その他 20 %
	基準等		種目ごとにレポートを課す。		完成した作品を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山根寛	ひとと作業・作業活動 新版		三輪書店	2015
参考図書	浅沼辰志	「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版」		メジカルビュー社	2021
	日本作業療法士協会	作業—その治療的応用 改訂第2版		協同医書出版社	2003
	日本作業療法士協会	作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版		日本作業療法士協会	2022
履修要件等	作業療法学概論・作業科学を履修していることが望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	武井：1号館5階 第18研究室	オフィスアワー	武井：毎週月曜日 12：10～13：00		
	白岩：1号館5階 第13研究室		白岩：毎週火曜日 12：10～13：00		

科目No.	SOE01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	作業療法評価学 I (含演習)		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・水野 貴子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が20年以上ある教員が、その経験を生かして、評価の考え方についての講義と、身体機能の代表的な検査・測定の知識と技法について指導する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、2年次のカリキュラム・ポリシーを達成するための根幹となる科目である。</p> <p>人が作業する際に用いる身体機能を適切に評価することが作業療法のスタートとなる。講義では作業療法評価の基本的な考え方・枠組みを学習する。加えて健常人の生理機能の測定、形態学的測定、関節可動域測定を主に身体機能の基礎評価の技法についても学習する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体機能系の評価の定義と流れや目的・意義を理解し説明ができる 2. 評価計画の立案や統合と解釈について理解し説明ができる 3. 代表的な作業療法の評価の目的・手段を述べるができる 4. 臨床見学実習で対象者と接する前段階において実習生としての知識・技術・態度を習得する 					
対面授業の 進め方	前半は、パワーポイントを使用した講義、グループ討論を実施する。後半は学生同士がペアになって実技を実施し、各評価技法の授業終了時(11、13、15回目)には実技の確認テストを実施する。実技は肩や肘が出せるようなシャツ、膝が出せるような下衣(ジーンズ・スカート不可)で参加のこと。各自配布された検査器具を必要に応じて持参すること。感染対策として、手指やベッド消毒などを行うこと。					
遠隔授業の 進め方	(前半授業) Microsoft office365のTeamsを使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業の出席確認は授業終盤に配信する課題の提出をもって行うこととする。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。(後半授業)対面のみとする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. ガイダンス、評価とは(目的)【講義/武井】<教科書 pp2~8、13~15、23>			復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
2. 作業療法と評価(評価項目・ICF)【講義/武井】<教科書 pp8~11>			復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
3. 作業療法と評価(評価計画、評価の手順と手段)【講義/武井】<教科書 pp15~17>			復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
4. 作業療法と評価(統合と解釈)【講義/武井】<教科書 pp20>			復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
5. 作業療法と評価(課題の抽出、治療目標)【講義/武井】<教科書 pp20~21, 24~27>			復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
6. 記録・報告の意義と特徴【講義/武井】<教科書 pp28~32>			復習:配布資料を元に内容を自分なりにまとめること			
7. 中間テスト(座学テスト)						
8. 関節可動域測定1(上肢)【実技/水野・武井】<教科書 pp69~79, pp84, pp86>			予習:教科書 pp69~79, pp84, pp86を予め読んでおくこと 復習:実技の復習をすること			

9. 関節可動域測定 2 (上肢・手指・下肢) 【実技/水野・武井】 <教科書 pp80～81、pp87～89>		予習：教科書 pp80～81、pp87～89 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
10. 関節可動域測定 3 (下肢・頸部) 【実技/水野・武井】 <教科書 pp81～84、pp89～91>		予習：教科書 pp81～84、pp89～91 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
11. 関節可動域測定 4 (頸部・体幹) 【実技/水野・武井】 <教科書 pp84>・確認テスト		予習：教科書 pp84 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
12. 形態計測 1 (上下肢長) ・【実技/武井・水野】 <教科書 pp62～68>		復習：配布資料を元に実技の復習をすること			
13. 形態計測 2 (上下肢周径) 【実技/武井・水野】 <教科書 pp62～68>・確認テスト		復習：配布資料を元に実技の復習をすること			
14. 血圧脈拍測定 【実技/水野・武井】 <教科書 pp50～55>、期末テストについて		復習：配布資料を元に実技の復習をすること			
定期試験 (実技試験)					
15. 総括及びフィードバック (実技試験の解説) ・血圧脈拍測定確認テスト					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 50 %	■その他 30 %
	基準等	前半座学ではグループ討論後のまとめを課題として評価する。		後半実技実習分を定期試験として実技試験を実施する。	第7回目に中間テストを実施し、座学の内容についての理解度を評価する。前半の座学、後半の実技実習を総合的に評価する。総合的な判定基準の詳細は、14回目の授業時にあらためて説明をする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	能登真一 他	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」		医学書院	2024
参考図書	佐竹勝・石井文康 編	「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法評価学 第3版」		メジカルビュー社	2022
	西守隆 編	「PT・OT 入門 イラストでわかる評価学」		医歯薬出版	2020
	伊藤俊一 監修	「PT・OT のための測定評価 DVD Series2 形態測定・感覚検査・反射検査 第2版」		三輪書店	2007
	内山靖 編	「図解 理学療法検査・測定ガイド第3版」		文光堂	2023
履修要件等	「作業療法学概論」「解剖学」「生理学」が履修済であることが望ましい。				
オープンな教育リソース	活用方法 関節可動域測定・形態測定における測定の一連の流れを知る、実技テストのヒント 動画内容 関節可動域測定・形態測定における、測定導入 (挨拶・説明) —測定—終了 (挨拶・報告) まで 教育リソース (動画) 関節可動域測定・形態測定のオンデマンド学習 https://youtu.be/xs4kJU14_j4 https://youtu.be/4Ycl3C3C-Ck				
研究室	武井：1号館5階 第18研究室 水野：1号館4階 第5研究室	オフィスアワー	武井：毎週月曜日 12:10～13:00 水野：毎週水曜日 12:10～12:50		

科目No.	SOE07-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	精神機能作業療法評価学		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟・増澤 達彦		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関での14年の臨床勤務経験のある教員がその経験を活かして、精神障害者を支援するために必要な評価方法について、実践的な視点を中心に指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。精神障害を持つ対象者を支援するために必要な評価法の基礎的知識について習得する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害領域の作業療法について概論を理解できる 2. 精神障害領域における評価の目的と意義について説明できる 3. 精神障害領域における評価法の種類と適用について説明できる 4. 精神障害領域における評価結果を適切に記録することができる 					
対面授業の 進め方	教科書および資料を用いて、精神障害領域における評価について学習する。学習のする上で、意見交換の場を設定し、アクティブラーニングを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序1(教科書①p85～p121)			復習：講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
2. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序2(教科書①p122～p154)			復習：講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
3. 精神障害領域における情報収集(教科書①p156～172)			予習：教科書①p156～172を読んでおく			
4. 精神障害領域における観察評価(教科書①p374～p383)			予習：教科書①p374～p383を熟読しておく			
5. 精神障害領域における面接評価(教科書①p173～186、p374～p383)			予習：教科書①p173～186を読んでおく			
6. 精神障害領域における検査測定①(精神症状評価尺度) 精神障害領域における検査測定②(社会機能評価尺度)			復習：配布された資料をもとに知識整理を行う教科書②p1707を読んでおく			
7. 精神障害領域における検査測定①(機能評価尺度、心理検査尺度)			復習：配布された資料をもとに知識整理を行う			
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)			これまでの全範囲を復習しておく			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 20 %	■定期試験 70 %	■その他 10 %	
	基準等		授業期間中に課し、授業期間終了に提出	授業(資料含む)・演習を行った範囲から出題	授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	山根寛	精神障害と作業療法 新版		三輪書店	2017	
	早坂友成 編	最新作業療法学講座 精神障害作業療法学		医歯薬出版	2025	

参考図書	能登真一 他	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	医学書院	2024
履修要件等	作業療法概論（1年次前期科目）を履修していることが望ましい。			
オープンな 教育リソース				
研究室	白岩：1号館5階 第13研究室 増澤：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	白岩：毎週火曜日 12：10～13：00 増澤：毎週木曜日 12：10～13：00	

科目No	SCP01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床実習指導 I		担当教員 E-Mail	増澤 達彦・上島 健		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	精神障害分野、就労支援分野で作業療法士として10年以上勤務経験のある教員がその経験を活かして、臨床見学実習へ向けて作業療法の基本的な知識と手法、対象者への対応を指導する。					
授業内容の要約	臨床見学実習での学修効果を得るために、臨床現場の状況を捉える視点や作業療法士として求められる基本的な態度や心構えを学修する。 災害訓練(模擬患者役体験)を通じ、災害時傷病者へのトリアージ、心構え、救急救護場面において、多数の傷病者対応を迫られた際に、医療従事者として最善の方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習の全体像を理解する 2. 臨床見学実習への心構えや態度を理解して説明できる 3. 臨床での作業療法に興味を持つ 					
対面授業の 進め方	講義を主体とした授業を行う。また、アクティブラーニングとして「プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション」などを実施する。					
遠隔授業の 進め方	講義では Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 後期学生生活についてのオリエンテーション						
2. 小テスト、レクリエーション						
3. 実習準備指導(あいさつ)				講義内容の復習		
4. 実習準備指導(話す技術)				講義内容の復習		
5. 実習準備指導(聞く技術)				講義内容の復習		
6. 実習準備指導(パーソナルスペース/目線の効果)				講義内容の復習		
7. 実習準備指導(言語/非言語のサイン)				講義内容の復習		
8. 実習準備指導(質問の仕方オープン/クローズ)				講義内容の復習		
9. 実習準備指導(困ったコミュニケーション)				講義内容の復習		
10. 災害講義「訓練詳細と災害概論」				通常授業日程とは異なるので注意すること		
11. 災害訓練の模擬患者役				通常授業日程とは異なるので注意すること		
12. 災害訓練の模擬患者役				通常授業日程とは異なるので注意すること		
13. 専門科目学習会①				授業配布資料・ノートの確認		
14. 専門科目学習会②				授業配布資料・ノートの確認		
15. 総括及びフィードバック(全講義の振り返り)				冬季休業中の課題に対する小テストを実施する		
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50 %		■その他 50 %		
	基準等	期限内の実習関連書類提出、必要事項の記載がなされているかを評価する		授業に取り組む姿勢を評価する		

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	臨床実習委員会編	作業療法学専攻；臨床実習の手引き第7版	大阪河崎リハビリテーション大学	
	山口 美和	PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド第3版	医学書院	2024
		随時参考資料を配布		
参考図書	特になし			
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない			
オープンな教育リソース				
研究室	上島：1号館5階 第14研究室 増澤：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	上島：毎週木曜日 14:40～16:10 増澤：毎週木曜日 12:10～13:00	

科目No	SCP04-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床見学実習		担当教員 E-Mail	増澤 達彦・上島 健・嶋野 広一		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(45h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に医療・保健・福祉機関で働く作業療法士の役割・分担、対象者・児へのリハビリテーションサービス(評価・介入・援助)、他の関連職種との連携と社会資源の活用、個人情報保護の配慮、などを診療チームの一員として自覚を促すように解説すると共に、臨床見学体験を通して学内での学習意欲への動機づけを指導する。					
授業内容の要約	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野を見学する。臨床実習施設の概要、対象疾患、作業療法の実践内容を見聞、体験すると共に対象者(児)やスタッフへの対応を経験し、2年次への学修につなげる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・福祉・医療などの現場における作業療法士の役割・分担について理解することができる。 2. 作業療法士と他の関連職種についての役割・分担・専門内容を理解することができる。 3. 作業療法士が勤務する他の関連施設・病院についての役割・分担・専門内容を理解することができる。 4. 個人情報保護に配慮して対象児・者を多面的に理解することができる。 5. 臨床場面での体験を通して、学内での学習意欲(動機付け)を更に高めることができる。 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実習に準じたマナーや社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。 ・ 臨床実習にふさわしい服装で臨むこと。 					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のteamsを使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信の提示については、各担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			60分以上
身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設で2週間の臨床見学実習を実施する。			臨床見学実習施設の概要・方針をホームページ等で調べ、医療従事者の役割を知るため事前準備をしておくこと。臨床実習指導Iでの学び、及び資料「実習の手引き」等を介して自らの実習目的・目標をもつこと。			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	□定期試験 %	■その他 100 %	
	基準等				以下を総合的に判断する。 ①実習前評価・口頭試問 ②実習報告会の評価点 ③実習後評価	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	臨床実習委員会編	作業療法学専攻:臨床実習の手引き 第7版		大阪河崎リハビリテーション大学	2024	
参考図書			必要に応じて紹介する			
履修要件等	<ol style="list-style-type: none"> ① 実習要件1) を満たしていること ② 該当年度の臨床実習指導における到達度評価(臨床実習準備・実習前評価)が合格水準に達すること 					
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館5階 第2共同研究室		オフィスアワー	増澤:毎週木曜日 12:10~13:00		

科目No.	FPS01-1R、FPS01-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	学習・認知心理学		担当教員 E-Mail	松尾 加代		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	言語聴覚学	心の働き	必修	2単位	後期(46h)	
	ヘルスプロモーション	心理学	選択必修			
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>【学習心理学】学習心理学は行動に関する心理学である。行動は、経験や学習を通して形成される刺激に対する反応であり、消去や変容も可能である。行動はどのように学習されるのか、日常生活とどのように関連しているのかについて概説する。</p> <p>【認知心理学】認知心理学には、知覚・記憶・思考・意思決定など、頭の中で行われている情報処理に関する心理学である。目に見えない認知機能をどのように研究し、これまでにどのようなことが明らかになっているのかについて概説する。</p>					
学修目標 到達目標	<p>1. それぞれの領域で研究されている内容を理解する</p> <p>2. 日常生活において応用できるような技術を身につける</p>					
対面授業の 進め方	講義形式で行う。配布資料は重要箇所が空欄になっているので、学習者がその空欄を埋めることで資料を完成させる。毎講義後に、講義に関する質問や感想の提出を求める。質問の回答および補足説明は、次の講義の最初に行う。					
遠隔授業の 進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の Teams を使用して講義を実施する。講義終了後、指定された課題を提出する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. イントロダクション：学習心理学と認知心理学			自分の言葉で内容をまとめる			
2. 単一刺激の学習			授業で出てきた用語を整理する			
3. 古典的条件づけ(1)			古典的条件づけのメカニズムを理解する			
4. 古典的条件づけ(2)			用語を整理し、授業内容を復習する			
5. 古典的条件づけ(3)			用語を整理し、授業内容を復習する			
6. オペラント条件づけ(1)			オペラント条件づけのメカニズムを理解する			
7. オペラント条件づけ(2)			用語を整理し、授業内容を復習する			
8. オペラント条件づけ(3)			用語を整理し、授業内容を復習する			
9. 技能学習			技能学習に関わる用語を復習する			
10. 社会的学習			社会的学習に関わる用語を復習する			
11. 概念学習			自分の言葉で内容をまとめる			
12. 動機づけ			授業で出てきた用語を整理する			
13. 知覚(1)			現象を整理して、授業内容を復習する			
14. 知覚(2)			現象を整理して、授業内容を復習する			
15. 顔の認知			自分の言葉で内容をまとめる			
16. 記憶(1)			記憶のメカニズムを理解する			
17. 記憶(2)			用語を整理し、授業内容を復習する			
18. 記憶(3)			用語を整理し、授業内容を復習する			
19. メタ認知			自分の言葉で内容をまとめる			
20. 推論			授業内容を種類ごとに整理してまとめる			
21. 問題解決			用語を整理し、授業内容を復習する			

22. 判断と意思決定		授業内容を種類ごとに整理してまとめる			
定期試験					
23. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %
	基準等	授業内課題を呈示する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特に指定しない				
参考図書	山田弘幸	言語聴覚士のための心理学 第2版		医歯薬出版	2020
	仲真紀子 編著	いちばんはじめに読む心理学の本4 認知心理学		ミネルヴァ書房	2010
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館4階 第4研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 14:40 ~ 16:10	

科目No.	FPS02-1R、FPS02-2E		授業形態	演習	開講年次	1年次・2年次
授業科目名	生涯発達心理学		担当教員 E-Mail	小村 宣子		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	言語聴覚学	心の働き	必修	1単位	後期(30h)	
	ヘルスプロモーション	心理学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	発達支援施設(教育・医療・福祉)にて勤務経験のある教員が生涯を通じた発達について講義する。					
授業内容の要約	乳幼児期から老年期まで周りの世界とかわりながら人がいかに育つか、一生涯の発達を講義する。					
学修目標 到達目標	1. 乳幼児期から老年期まで、認知・言語・社会性・パーソナリティ等の生涯発達過程を理解する。 2. 生涯発達心理学の知識を、言語聴覚療法等の臨床場面で活用する視点や方法を知る。					
対面授業の 進め方	講義と演習を基本として進める。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は実施しない。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 生涯発達心理学の基礎と概要①			講義内容を復習しノートにまとめる。			
2. 生涯発達心理学の基礎と概要②			講義内容を復習しノートにまとめる。			
3. 乳児期の発達① 感覚運動による認知			講義内容を復習しノートにまとめる。			
4. 乳児期の発達② 養育者との関係			講義内容を復習しノートにまとめる。			
5. 幼児期の発達① 自他の認識と対人関係			講義内容を復習しノートにまとめる。			
6. 幼児期の発達② 表象(イメージ)による認知・言語			講義内容を復習しノートにまとめる。			
7. 児童期の発達① 論理的な思考へ			講義内容を復習しノートにまとめる。			
8. 児童期の発達② 対人関係の広がり和社会化			講義内容を復習しノートにまとめる。			
9. 青年期の発達① 「思春期」と行動			講義内容を復習しノートにまとめる。			
10. 青年期の発達② 価値観・アイデンティティ			講義内容を復習しノートにまとめる。			
11. 成人期の発達① 職業生活・家庭生活			講義内容を復習しノートにまとめる。			
12. 成人期の発達② 「中年危機」・老いと死の問題			講義内容を復習しノートにまとめる。			
13. 発達理論①			講義内容を復習しノートにまとめる。			
14. 発達理論②			講義内容を復習しノートにまとめる。			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック			講義内容の復習			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 0%	□レポート 0%	■定期試験 100%	□その他 0%	
	基準等			教科書と配布資料から出題する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	二宮 克美 他編著	ガイドライン生涯発達心理学 第2版		ナカニシヤ出版	2012	
参考図書						
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室			オフィスアワー			

科目No.	FSL01-1R、FHW09-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	音声学		担当教員 E-Mail	児島 その		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	言語聴覚学	言語とコミュニケーション	必修	2単位	後期(46h)	
	ヘルスプロモーション	保健医療福祉	選択必修			
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	言語聴覚士の臨床に必要な不可欠な音声について、基本的なメカニズムと音声実現の事象を関連づけながら講義と演習を交えて概説するとともに臨床における実践例を紹介していく。 国家試験対策として過去の出題問題を分析、解法や重要ポイントを解説しながら基礎知識の整理を目指す。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本語音声の基本的な知識を習得し、国家試験問題を解くことができる。 日本語音声について国際音声記号(IPA)に則した表記と構音の説明ができる。 様々な音韻現象に気づき、その機序を考察することができる。 					
対面授業の 進め方	実際に音声を出して練習するなど、学生が主体的に学べるよう工夫する。適時、関連する国家試験問題について取り上げ、問題の形式や内容に早期から慣れておけるようにする。					
遠隔授業の 進め方	対面授業を原則とするが、必要に応じ teams を用いて授業の LIVE 配信による遠隔授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. 音声の概要と発声のしくみ			復習：講義内容の振り返り			
2. 言語音について			復習：講義内容の振り返り			
3. 国際音声記号 IPA 総論			復習：講義内容の振り返り			
4. 国際音声記号 IPA 各論			復習：講義内容の振り返り			
5. 国際音声記号 IPA 演習(構音練習)			復習：講義内容の振り返り			
6. 国際音声記号 IPA 演習(筆記練習)			復習：講義内容の振り返り			
7. 国際音声記号 IPA 演習(記憶学習)			復習：講義内容の振り返り			
8. 音素・音節・モーラ・ミニマルペア			復習：講義内容の振り返り			
9. 音韻現象①音韻交替規則 など			復習：講義内容の振り返り			
10. 音韻現象②異化/同化(異音)・無声化 など			復習：講義内容の振り返り			
11. まとめと復習・国試対策演習(過去問学習)			復習：復習プリントの重点学習			
12. IPA 演習(筆記練習)・中間試験プレテスト			復習：前半講義内容の振り返り			
13. 中間試験			復習：課題項目の再学習			
14. 超分節的特徴総論			復習：講義内容の振り返り			
15. 超分節的特徴各論①フット・リズム・強調 など			復習：講義内容の振り返り			
16. 超分節的特徴各論②アクセント			復習：講義内容の振り返り			
17. 超分節的特徴各論③イントネーション			復習：講義内容の振り返り			
18. 音声の音響学的特徴(フォルマント)			復習：講義内容の振り返り			
19. 国試対策演習(過去問学習)			復習：過去問プリントの重点学習			
20. 国試対策演習(過去問学習)			復習：過去問プリントの重点学習			
21. 総復習			復習：復習プリントの重点学習			
定期試験(記述式問題およびマーク式問題)			復習：課題項目の再学習			
22. フィードバック(定期試験解説)			復習：講義内容の振り返り			
23. 音声の音響学的特徴			復習：講義内容の振り返り			

成績評価方法	項目	■課題+中間試験(40%)	□レポート %	■定期試験(60%)	■その他 %
	基準等	①プリント課題提出 ②中間試験(60%を合格最低点とする)	なし	①記述式問題 ②マーク式問題 (合計60%を合格最低点とする)	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		なし			
参考図書		なし			
履修要件等	なし				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問等あればどうぞ。	

科目No.	SDS01-1R、SRE03-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	言語聴覚障害学総論 I		担当教員 E-Mail	塚本 能三		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語聴覚障害学総論		必修	1単位	前期(16h)
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学		選択必修		
教員の実務経験と授業内容の関連	言語聴覚士として臨床経験のある教員が、その経験を生かして言語聴覚障害の概論を講義する。					
授業内容の要約	言語聴覚障害の概略と言語聴覚士の職務内容、社会的責任を理解する。					
学修目標 到達目標	1. 人間のコミュニケーションの特質が理解できる。 2. 言語聴覚障害学に関する基礎的理解ができる。 3. 医療従事者としての基本的態度を身につける。					
対面授業の 進め方	座学の他に一部実技も実施する。アクティブラーニングを通じてテーマに対する積極的な意見交換や意欲的・自主的な学習態度を養う。					
遠隔授業の 進め方	各講義に相当する教科書内容に沿った課題を毎回各受講者に送信する。各自がその課題に取り組んだ結果を期日までに担当教員に送信する。その送信内容で理解度を評価し、また各講義への出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 言語聴覚障害と言語聴覚士の役割	(教科書 p2～ 41)		教科書 p2～41 を予習しておく。			
2. 言語とコミュニケーション	(教科書 p43～ 86)		講義内容を復習しノートにまとめる。			
3. 言語聴覚障害の種類「失語症」	(教科書 p88～ 97)		講義内容を復習しノートにまとめる。			
4. 言語聴覚障害の種類「言語発達障害」と聴覚障害	(教科書 p98～ 108) (教科書 p172～ 186)		講義内容を復習しノートにまとめる。			
5. 言語聴覚障害の種類「高次脳機能障害と認知症」	(教科書 p109～ 120)		講義内容を復習しノートにまとめる。			
6. 言語聴覚障害の種類「音声障害と吃音」	(教科書 p120～ 129・151～158)		講義内容を復習しノートにまとめる。			
7. 言語聴覚障害の種類「構音障害と嚥下障害」	(教科書 p129～171)		講義内容を復習しノートにまとめる。			
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)				講義内容の復習		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 60%	□その他 10%	
	基準等	確認テストを毎回実施する。		講義中に配布する資料の内容から出題し理解度を評価する。	授業態度など	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	藤田郁代 監修	標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版		医学書院	2019	
参考図書	毛束真知子	絵でわかる言語障害 第2版		学研メディカル秀潤社	2013	
履修要件等	無し					
オープンな教育リソース						
研究室	1号館1階 言語聴覚学専攻長室	オフィスアワー	毎週水曜日 14:40～16:10			

科目No.	SDS02-1R、SRE04-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	言語聴覚障害学総論Ⅱ		担当教員 E-Mail	塚本 能三 / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	言語聴覚学	言語聴覚障害学総論	必修	1単位	後期(16h)	
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学	選択必修			
教員の業務経験と授業内容の関連	言語聴覚士として臨床経験のある各教員が分担して言語聴覚障害各分野の概論を講義する。					
授業内容の要約	<ul style="list-style-type: none"> 言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を学ぶ。 言語聴覚障害のある方や家族とどのように関わるか、関連職種とどのように連携するかなど、今後の臨床活動の基本的な考え方を学ぶ。 					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を理解する。 言語聴覚障害のある方の生活・心理・社会状況について理解する。 臨床活動全般に必要な配慮や基礎的知識を習得する。 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> 言語聴覚学専攻の教員が各自の専門分野を分担して講義する。 今後、上位学年での更に高度な専門各分野の学習を進めていく為に必要な基礎的知識、基本的視点を確実に習得されることを期待する。 					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、リアルタイムの双方向通信授業を行う。 通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 小児聴覚障害1【廣瀬】(教科書 p349 ~ 356)				復習しノートへまとめる。		
2. 小児聴覚障害2【廣瀬】(教科書 p328~331)				復習しノートへまとめる。		
3. 成人聴覚障害【馬屋原】(教科書 p357 ~ 362)(教科書 p 362 ~ 364)				復習しノートへまとめる。		
4. 言語発達障害(発達障害)【高橋】(教科書 p291 ~ 306)				復習しノートへまとめる。		
5. 小児構音障害【高橋】(教科書 p377 ~ 385)				復習しノートへまとめる。		
6. 嚥下障害(成人)・音声障害・成人構音障害【芦塚】(教科書 p404 ~ 419)(教科書 p366 ~ 376)				復習しノートへまとめる。		
7. 失語症と高次脳機能障害(教科書 p259 ~ 274)【塚本】(教科書 p275 ~ 290)				復習しノートへまとめる。		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)【塚本】				講義内容の復習		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 20%		■定期試験 70%		□その他 10%
	基準等	確認テスト、レポート等		各分野担当教員が分担し各々の講義内容に沿った問題を出題する。		授業態度等
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	大森孝一 ほか	「言語聴覚士テキスト 第4版」		医歯薬出版	2025	
参考図書	毛束真知子	「絵でわかる言語障害 第2版」		学研メディカル秀潤社	2013	
履修要件等	言語聴覚障害概論Ⅰが履修済みであることが望ましい。					
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館1階 言語聴覚学専攻長室		オフィスアワー	毎週水曜日 14:40~16:10		

科目No.	SHD01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	聴覚検査法		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、聴覚障害の評価に必要な各種聴覚検査法について指導を行う。					
授業内容の要約	聴覚障害の障害状況を把握するために臨床で使われている検査法を知り、実際に使えるように技術を身に付ける。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準純音聴力検査が実施できる 2. 語音聴力検査が実施できる 3. その他の主な聴覚検査が実施できる 					
対面授業の 進め方	各検査についての講義および検査機器を扱いながら各種検査の実技を行う。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 耳の構造と機能、難聴について (教科書 pp.2~34)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
2. 音の基礎知識、オーディオメーターとその構造、保守、点検、および取扱い (教科書 pp.35~44)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
3. 標準純音聴力検査 (1) (気導聴力検査) (教科書 pp.46~54)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
4. 標準純音聴力検査 (2) (気導聴力検査) (教科書 pp. 46~54)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
5. マスキングについて (教科書 pp.56~62)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
6. 標準純音聴力検査 (3) (骨導聴力検査) (教科書 pp.54~56)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
7. 標準純音聴力検査 (4) (まとめ)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
8. 自記オーディオメトリー (教科書 pp.63~69)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
9. 閾値上聴力検査 (SISI) (教科書 pp.70~76)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
10. 語音聴力検査 (1) (語音了解閾値検査) (教科書 pp.77~88)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
11. 語音聴力検査 (2) (語音弁別検査) (教科書 pp.88~92)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
12. インピーダンス・オーディオメトリー (教科書 pp.93~103)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
13. 聴性誘発反応—他覚的聴力検査 (教科書 pp.121~141)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
14. 乳幼児聴力検査 (教科書 pp.142~156)			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			

定期試験					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100% □その他 %	
	基準等				筆記試験で授業内容全般についての理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	日本聴覚医学会編	「聴覚検査の実際 第5版」		南山堂	2024
参考図書	大森孝一 他	「言語聴覚士テキスト 第4版」		医歯薬出版	2025
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00	

科目No.	SCP01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床実習指導 I		担当教員 E-Mail	松尾・加代・馬屋原 邦博・ST 教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1 単位	後期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設等において 5 年以上の実務経験のある言語聴覚士の授業により、臨床における基本的考え方や文章能力の必要性、文章の書き方について講義及び指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「医療の高度化や変化する時代に対応し、医療従事者として、生涯にわたり、知識や技能を研鑽することができる」を身につけるため、コミュニケーション力と臨床における観察の技術向上に努める。また ST の役割について理解し、臨床見学実習 I に繋げる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークを通して他者の意見を取り入れ、自己の意見の主張ができる 2. 基礎的な文章読解および文章表現（まとめ、考察）ができる 3. ST の役割について理解し、臨床における観察結果を記録することができる 4. 対象者が理解しやすい声の大きさや話し方ができる 					
対面授業の 進め方	臨床実習を意識して、積極的にグループワークに参加し、学ぶことが望まれる。グループワークを通して自分の意見を伝達し、質疑応答など学生同士で討論していく。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. オリエンテーション・臨床見学実習 I について				臨床見学実習 I について振り返る		
2. ST ワーク・血圧および脈拍測定の練習				血圧脈拍測定の実技について振り返る		
3. 文章の構成について				レポートを作成する		
4. クラスメイトのレポートを校閲する				レポートを修正する		
5. 会話によるコミュニケーション				学習内容を意識して会話をする		
6. パワーポイント資料の作成（中級）				発表のための資料を作成する		
7. 合同ゼミ（ST2・3年生と交流）				合同ゼミについて振り返る		
8. 観察・記録の書き方				観察・記録の書き方について振り返る		
9. 動画視聴①（失語症①）：課題としてレポートを作成				動画視聴①について振り返る		
10. 動画視聴②（失語症②）：課題としてレポートを作成				動画視聴②について振り返る		
11. 動画視聴③（構音障害①）：課題としてレポートを作成				動画視聴③について振り返る		
12. 動画視聴④（構音障害②）：課題としてレポートを作成				動画視聴④について振り返る		
13. 1年間で学んだことの発表①				発表①について振り返る		
14. 1年間で学んだことの発表②				発表②について振り返る		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック						
成績評価方法	項目	■課題・レポート 40%		■発表 50 %		□定期試験
	基準等	レポートや課題を行い評価する。		発表を行い、課題を評価する。		定期試験を実施しないため、課題の達成度によって成績が判定される。
■その他 10%						
出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。						

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		「臨床実習の手引き」		2026
参考図書	大森孝一 他	言語聴覚士テキスト 第4版	医歯薬出版	2025
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習Ⅰの修得は認められない。			
オープンな教育リソース				
研究室	馬屋原：1号館5階 第19研究室 松尾：1号館4階 第4研究室	オフィスアワー	馬屋原：毎週水曜日 12:10～13:00 松尾：毎週木曜日 14:40～16:10	

科目No.	SCP05-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床見学実習 I		担当教員 E-Mail	馬屋原邦博・高橋 泰子・ST教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	後期 (40h)
教員の実務経験と授業内容の関連	5年以上の臨床経験のある言語聴覚士の教員がオリエンテーションを行い、その後、臨床現場における基本的考え方と実際について言語聴覚士等が指導する。					
授業内容の要約	<p>言語聴覚士が活躍する様々な職域・現場を見学し、業務内容を知る。 様々な職場が地域においてどのような役割を担い、且つ、多職種と連携を図っているかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における就学前の乳幼児の発育・発達の間を知るると同時に、定型発達の発達を知る。 ・発達に特性を持つ子どもたちの支援の在り方を学ぶ。 ・医療機関における回復期の言語聴覚障害について学び、言語聴覚士の役割を学ぶ。 ・デイケアにおける維持期のリハビリテーションについて学ぶ。 					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定型発達の子どもの成長過程が説明できる。 2. 発達障がい児のリハビリテーションの概要を理解し、説明できる。 3. 成人や高齢者のリハビリテーションの概要を理解し、説明できる。 4. 言語聴覚士として目的に合った基本的な面接ができる。 					
対面授業の 進め方	<p>参加型の見学実習 これまで習ったことを理解した上で子どもや患者の症状や活動を観察する。観察するときは、業務の支障にならないように、そして社会人としての基本的態度に則って臨む。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>Microsoft office365 の Teams を使用し、様々な職場で活躍する言語聴覚士から臨床の実際について話を視聴する。可能な限り双方向通信ができるよう努める。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 認定こども園見学			認定こども園について調べる。 見学した内容をレポートにまとめる。			
2. クリニック見学			発達障害について調べる。 見学した内容をレポートにまとめる。			
3. デイケア見学①			事前に、血圧測定、脈診の練習をしておく。 見学後は、観たこと・知ったこと・考えたこと等をレポートにまとめる。			
4. デイケア見学②			見学参加後は、観たこと、知ったこと、考えたこと等をレポートにまとめる。			
5. 病院見学			成人の言語障害や嚥下障害について調べる。 見学した内容をレポートにまとめる。			
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 小テスト	<input checked="" type="checkbox"/> レポート	<input checked="" type="checkbox"/> 実技試験	<input checked="" type="checkbox"/> その他	%
	基準等		見学した内容をレポートの書き方に沿って記載できるかを評価する。	全ての見学終了後、OSCE(客観的臨床能力試験)を実施し評価する。	実習中の積極的な参加について評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	指定なし					
参考図書	大森孝一、永井知代子、深浦順一、渡部修	言語聴覚士テキスト第4版		医歯薬出版(株)		2025

履修要件等	① 実習要件 1) を満たしていること ② 該当年度の臨床実習指導における到達度評価（臨床実習準備・実習前評価）が合格水準に達すること		
オープンな教育リソース			
研究室	馬屋原：1号館5階 第19研究室 高橋：1号館5階 第17研究室	オフィスアワー	馬屋原：毎週火曜日 12:10～13:00 高橋：毎週火曜日 12:10～13:00

科目No	SAS01-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	研究ゼミ I	担当教員 E-Mail	河野 良平、川村明代		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション	研究ゼミ	必修	4単位	後期(60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連					
授業内容の要約	当該科目では、ヘルスプロモーション専攻学生としての学生生活を有意義に過ごすための意識と技能を修得するとともに、将来のビジョンを探求する。また、大学生活における学習習慣を確立し、大学生としての役割や責任感の自覚を醸成する。また、アクティブ・ラーニングとして健康産業施設にて体験学習を行い、当該施設が提供する健康の維持や向上に関わる業務内容や地域社会における役割・関連する健康産業との連携について学ぶ。その中で、社会的マナーや対人交流技能の向上を図る。				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスプロモーションの社会的役割について説明ができる 集団における個人としての自分の役割を認識し、行動目標を明確に持つ 予防医学的見地から健康の維持や向上を目的とした種々の健康産業が果たす役割や機能連携について理解を深める 接遇技法を理解し実践できるようになる 				
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> 学内にて事前・事後学修、及び健康産業施設訪問などのアクティブラーニングを利用した学修活動を行う 体験内容を報告書にまとめて報告会にて学修内容を共有する 身体を動かしやすい服装、運動靴で参加する 				
遠隔授業の 進め方	一定期間が遠隔になる場合は、Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。対面授業が可能になった状況で各健康産業施設を訪問する				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション① 授業の進め方・評価方法について等			復習：授業のまとめ		
2. オリエンテーション② 年間スケジュール、履修確認、学内ルール等			復習：学生便覧		
3. コミュニケーション演習を利用した自己紹介			復習：授業のまとめ		
4. 大学生活で成長するための POINT			復習：授業のまとめ		
5. 合同ゼミ（1年生～4年生）でのスポーツ活動（記念講堂）			復習：記念講堂の利用方法		
6. 合同ゼミ（1年生～4年生）でのスポーツ活動（フロンティアリハビリテーションセンター）			復習：FRC の利用の方法		
7. PC を利用したコミュニケーション（データサイエンス・ラボ）			復習：DL の利用の仕方		
8. Teams の使用方法の修得（データサイエンス・ラボ）			復習：Teams の活用方法		
9. イネーブルガーデンでの活動①（第2 イネーブルガーデン）			復習：授業のまとめ		
10. イネーブルガーデンでの活動②（第2 イネーブルガーデン）			復習：EG の活用方法		
11. 食品成分実験①（フードアナライズラボ）			復習：授業のまとめ		
12. 食品成分実験①（フードアナライズラボ）			復習：FAL の活用方法		
13. オリエンテーション③ 健康産業施設訪問 説明			復習：報告書の書式		
14. オリエンテーション④ 体験学習の Point、見学視点、接遇等			復習：報告、質疑応答の振り返り		
15. 健康産業施設の提示① 業種・業務内容・役割などの調査			復習：授業のまとめ		
16. 健康産業施設の提示① 業種・業務内容・役割などの調査			予習：質問内容、行動目標		

17. 健康産業施設への訪問①		復習：訪問の振返り			
18. 健康産業施設への訪問①		予習：報告内容の整理			
19. 体験内容報告書の作成①		復習：報告書の書式			
20. 体験内容報告書の報告①		復習：報告、質疑応答の振返り			
21. 健康産業施設の提示② 業種・業務内容・役割などの調査		復習：授業のまとめ			
22. 健康産業施設の提示② 業種・業務内容・役割などの調査		予習：質問内容、行動目標			
23. 健康産業施設への訪問②		復習：訪問の振返り			
24. 健康産業施設への訪問②		予習：報告内容の整理			
25. 体験内容報告書の作成②		復習：報告書の書式			
26. 体験内容報告書の報告②		復習：報告、質疑応答の振返り			
27. 各健康産業施設の事業内容をまとめる		復習：授業のまとめ			
28. 各健康産業施設訪問時の自己課題の抽出		復習：授業のまとめ			
29. 健康産業施設の事業内容を報告する		復習：授業のまとめ			
30. 総括及びフィードバック（授業の講評・次年度への課題）					
成績評価方法	項目	□小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・レポート 80%	□定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 20%
	基準等		各講の義終了時レポート、施設見学レポートによって評価を行う		準備・片付などの取り組む姿勢
教科書		著者	タイトル	出版社	発行年
参考図書			なし		
履修要件等		特になし			
オープンな教育リソース					
研究室			オフィスアワー		

科目No	SAS02-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	研究ゼミⅡ	担当教員 E-Mail	河野 良平、川村 明代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数	履修期間
	ヘルスプロモーション	研究ゼミ		必修 4単位	後期(60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連					
授業内容の要約	当該科目では、種々の健康産業施設を訪問し、関係者の方々の業務の実際を体験するとともに施設全体を見学する。この健康産業施設における体験学習を通して当該施設が提供する健康の維持や向上に関わる業務内容・地域社会における役割・関連する健康産業との連携について学ぶ。 対象者や顧客との信頼関係を構築するための基本的態度や行動を学ぶ。				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予防医学的見地から健康の維持や向上を目的とした種々の健康産業が果たす役割や機能連携について理解を深め、地域住民の生活を支援する視点を身につける。 2. 事前学修や事後学修を通して地域住民が求める健康産業への期待と要望を理解するとともに、活動状況を振り返り、自らの課題と目標を認識する。 3. 接遇技法やコミュニケーション技法を理解し実践できるようになる。 				
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学内にて事前・事後学修、及び健康産業施設訪問などのアクティブラーニングを利用した学修活動を行う。 2. 体験内容を報告書にまとめて報告会にて学修内容を共有する。 3. 身体を動かしやすい服装、運動靴で参加する。 				
遠隔授業の 進め方	一定期間が遠隔になる場合は、Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。 対面授業が可能になった状況で各健康産業施設を訪問する。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション① 授業の進め方・評価方法について等			復習：授業のまとめ 予習：敬語		
2. オリエンテーション② 体験学習の Point、見学視点、接遇等			復習：授業のまとめ 予習：業種業務内容		
3. 健康産業施設の提示① 業種・業務内容・役割などの調査			復習：授業のまとめ		
4. 健康産業施設の提示① 業種・業務内容・役割などの調査			予習：質問内容、行動目標		
5. 健康産業施設への訪問①			復習：訪問の振り返り		
6. 健康産業施設への訪問①			予習：報告内容の整理		
7. 体験内容報告書の作成①			復習：報告書の書式		
8. 体験内容報告書の報告①			復習：報告、質疑応答の振り返り		
9. 健康産業施設の提示② 業種・業務内容・役割などの調査			復習：授業のまとめ		
10. 健康産業施設の提示② 業種・業務内容・役割などの調査			予習：質問内容、行動目標		
11. 健康産業施設への訪問②			復習：訪問の振り返り		
12. 健康産業施設への訪問②			予習：報告内容の整理		
13. 体験内容報告書の作成②			復習：報告書の書式		
14. 体験内容報告書の報告②			復習：報告、質疑応答の振り返り		
15. 健康産業施設の提示③ 業種・業務内容・役割などの調査			復習：授業のまとめ		
16. 健康産業施設の提示③ 業種・業務内容・役割などの調査			予習：質問内容、行動目標		
17. 健康産業施設への訪問③			復習：訪問の振り返り		

18. 健康産業施設への訪問③		予習：報告内容の整理			
19. 体験内容報告書の作成③		復習：報告書の書式			
20. 体験内容報告書の報告③		復習：報告、質疑応答の振返り			
21. 健康産業施設の提示④ 業種・業務内容・役割などの調査		復習：授業のまとめ			
22. 健康産業施設の提示④ 業種・業務内容・役割などの調査		予習：質問内容、行動目標			
23. 健康産業施設への訪問④		復習：訪問の振返り			
24. 健康産業施設への訪問④		予習：報告内容の整理			
25. 体験内容報告書の作成④		復習：報告書の書式			
26. 体験内容報告書の報告④		復習：報告、質疑応答の振返り			
27. 各健康産業施設の事業内容をまとめる		復習：授業のまとめ			
28. 各健康産業施設訪問時の自己課題の抽出		復習：授業のまとめ			
29. 各健康産業施設の事業内容を報告する		復習：授業のまとめ			
30. 総括及びフィードバック（授業の講評・次年度への課題）					
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 小テスト %	<input type="checkbox"/> 課題・レポート 100%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 20%
	基準等		各訪問前後のレポート内容、発表状況によって評価を行う		準備・片付などの取り組む姿勢
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		なし			
参考図書		なし			
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	(河野) 研究科棟 4 階 147 研究室 (川村) 1 号館 5 階 第 1 共同研究室	オフィスアワー	※検討中		